



日本統計学会 会報 2025.7.31 No. 204

発行——一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—青嶋 誠(理事長) / 坂田 綾香(庶務理事)
小西 葉子(前広報理事) / 朝日 弓未(広報理事)
浦沢 聡士(前広報委員) / 田島 友祐(広報委員)
塚本 高浩(前広報委員) / 趙 宇(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 会長就任のご挨拶……………狩野 裕… 1 | ……………照井伸彦…14 |
| 2. 会長退任のご挨拶……………照井伸彦… 2 | 12. 第7回細谷賞授賞について……………松田安昌…16 |
| 3. 理事長就任のご挨拶……………青嶋 誠… 3 | 13. 2025・2026年度会長選挙開票報告 |
| 4. 理事長退任のご挨拶……………川崎能典… 5 | ……………川久保友超・長谷川翔平…17 |
| 5. 第30回日本統計学会賞について……………照井伸彦… 6 | 14. 2024年7～12月統計検定CBT方式試験の |
| 6. 第5回日本統計学会中村隆英賞について | 成績優秀者……………狩野 裕・青嶋 誠…17 |
| ……………照井伸彦… 8 | 15. 統計検定合格者の声……………狩野 裕・青嶋 誠…19 |
| 7. 第21回日本統計学会統計活動賞について | 16. 理事会・委員会報告（2025年5月10日開催）…22 |
| ……………照井伸彦…10 | 17. 社員総会報告（2025年6月7日開催）……………24 |
| 8. 第21回日本統計学会統計教育賞について | 18. 理事会報告（2025年6月7日開催）……………30 |
| ……………照井伸彦…11 | 19. スポーツデータサイエンス分科会（2021-2025年 |
| 9. 第19回日本統計学会研究業績賞について | 度）報告……………酒折文武…31 |
| ……………照井伸彦…12 | 20. 博士論文・修士論文の紹介……………32 |
| 10. 第18回日本統計学会出版賞について | 21. 新刊紹介……………34 |
| ……………照井伸彦…13 | 22. 学会事務局から……………35 |
| 11. 第39回日本統計学会小川研究奨励賞について | 23. 投稿のお願い……………36 |

1. 会長就任のご挨拶

狩野 裕（同志社大学）

この度、2025年6月の理事会において日本統計学会会長に選出されました。日本統計学会は1931年に設立された歴史ある学会で創立100周年も視野に入ってきました。その伝統ある学会の会長に選出されたことはこの上ない名誉であります。照井伸彦前会長と歴代会長のご功績を引き継ぎ、青嶋誠理事長をはじめ理事、監事、代議員と学会員の皆様からのご協力を得ながら学会のために微力を尽くす所存です。引き続きご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最新の会報（2025/4/30発行）によると日本統計

学会の会員は1,470名で、決して多いとは言えません。たとえば、米国のASAが19,000名、英国RSSが11,000名、韓国KSSが6,000名であり（いずれも概数）、人口当たりに換算するとより差は開きます。日本でデータサイエンス（DS）という用語が市民権を得た昨今でも統計学関連学会の会員が増加したようには見えません。当然ながら、学会は規模が全てではありません。しかし、統計学やその関連分野



は相当に広く、それらをカバーしそれらの発展に寄与するためには、会員増を図り会員間のコミュニケーションを促進する必要があるのではないのでしょうか。

従来から、なぜか我が国は統計学の認識が高くないように感じています。文部科学省主導で行われている小学校・中学校における統計分野の充実、高等学校における統計教育の実質化、データサイエンス関連学部・学科の新設、統計学・DSの指導者・教育者の強化プログラムや本学会が公式認定する統計検定など好ましい限りです。これらをバネに、我が国でも、統計学・DSの認識がより高まり、統計学・DSが文化や産業を活性化し国民各人のQOLの向上に資することを切に期待します。

そのために今重要なことの一つは、機械学習・人工知能(AI)を統計学・DSに有意義に取り込むことではないのでしょうか。AIは実務にそして研究のツールとして極めて有用で、要約、翻訳、画像処理、文章・画像・動画生成、プログラミングなどにおけるコストパフォーマンスやタイムパフォーマンスの改善に重宝されているのはご存知の通りです。AIが執筆した論文が査読をパスしたという報道も記憶に新しいです。統計学の発展を振り返るとき、計算機(PC)環境のドラスティックな発展に触れないわけにはいきません。20世紀半ばからSASやSPSSに代表される汎用プログラムが開発され統計実務や実証研究に貢献しました。つづいてそれら汎用プログラムのPC(含ワークステーション)への移植、PC向けに開発されたプログラム(SAS Jump, S, エクセル他)の登場があ

り、統計関係者を人力による計算とグラフ描画から解放しました。昨今は、RやPython等オープンソースの統計解析プログラム言語の開発・提供へと進んでいます。結果として、統計学・DSのエンドユーザが広がりました。しかし、計算機統計学と云われる学問の本質的なrevolutionは、Bootstrap法や各種Monte Carlo法に代表されるシミュレーション技術との融合ではなかったでしょうか。AIの発展が、コストパフォーマンス・タイムパフォーマンスの向上に留まることなく、AI統計学と名がつくに相応しいrevolutionをいかにして生み出していくか、日本統計学会がその中心的役割を果たせるよう環境を整えることができればと思慮しています。

会長略歴

狩野 裕(かの ゆたか) 工学博士(1986年、大阪大学)

現職 同志社大学 文化情報学部 特別客員教授

1994年 筑波大学 数学系 助教授

1997年 大阪大学 人間科学部 助教授

2004年 大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授

2017年 大阪大学 大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長

2022年 大阪大学 数理・データ科学教育研究センター長

2022年 日本行動計量学会理事長

2024年 同志社大学 特別客員教授、現在に至る
研究分野：統計学，データ科学，行動計量学，数理統計学，多変量解析，統計教育

2. 会長退任のご挨拶

照井 伸彦(東京理科大学)

2023年5月より2年間にわたり務めてまいりました日本統計学会会長の任を6月7日社員総会を持って終えることができました。この2年間、理事・監事・代議員の皆様、そして会員の皆様のご

支援に深く感謝申し上げます。

統計学およびデータサイエンスの重要性が年々高まり、その社会的役割と責任が拡大しています。あらゆる分野でデータの利活用が求められる

現在において、統計学の果たすべき役割は、学術研究の枠を超え、産業界や政策立案、教育現場、そして市民生活にまで及んでいます。このような時代の流れの中で、当学会も文理の垣根を越えて多様な分野との連携を図りながら、統計学とデータサイエンスの価値を広く社会に伝え、応用の可能性を積極的に後押しすることを意識して活動しました。なかでも Society5.0/ データ革命対処のためのデータサイエンス教育を実質化する統計科学「統計エキスパート人材育成事業」の強化に関する要望の文科大臣への提言、社会の中の統計としての総務省・統計大会／グラフコンクールでの日本統計学会賞会長賞表彰など、会長職であるが故の貴重な経験ができました。

また学会では第30回となる日本統計学会賞や第39回となる小川賞を始めとして計7種類の学会賞を顕彰しています。すべての部門での受賞を毎年決定することは容易ではありませんが、任期2年目には全部門での受賞者を決定でき、また受賞者数も11から19人（件）と増加し、会員の皆様の様々な活動を激励することができました。春季集会では、若手によるポスター発表の件数や研究分野が拡充しました。またコロナ禍で途切れていた

企画出展募集を再開し、今後、不況の深化で広告収入の減少に対応するため、広報誌への広告に加えてWebサイトバナー広告など、新しい体制構築に向けて議論を始めるきっかけとなることを期待して委員の追加もお願いしました。

社員総会および役員代議員協議会で年3回、理事会および春季集会準備会で年5回の会議運営で長期の休みを除くと毎月に近い頻度で会議を運営しました。これらの会議に掛かる準備については、川崎理事長はもちろんのこと、関係者への連絡や出欠確認、資料作成、会議の段取りをすべて細かく担当頂いた伴正隆庶務理事には多大なご負担をお掛けしました。運営の持続可能性には不可欠なお役目であり、改めて御礼を申し上げます。

最後になりますが、狩野裕会長・青嶋誠理事長の新体制のもとで、本学会がさらに力強く前進していけることを確信しております。私自身も、2年間は引き続き監事として理事会へのサポートを通じて学会活動に貢献して参りたいと考えております。

これまでのご支援とご厚情に心より御礼申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

3. 理事長就任のご挨拶

青嶋 誠（筑波大学）

このたび、理事長として日本統計学会の運営をとりまとめる責務を担うこととなり、身の引き締まる思いであります。本学会は、1931年の創立以来、わが国における統計学の発展を牽引してきた歴史と伝統ある学会です。私自身、これまで評議員、代議員、理事を務め、和文誌編集委員長、欧文誌編集委員長、ならびに Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSd) 編集委員長を歴任し、学会活動に継続的に関わって参りました。こうした歩みを通じて培ってきた経験と知見を踏まえ、理事長としての責務を誠実に果たして参りたいと存じます。

統計学は、時代とともに常に変化し続ける学問領域です。その根底には不確実性を扱う知の体系があり、理論の厳密さと応用の柔軟さとを兼ね備えた稀有な性格を有しています。近年では、ビッグデータやAI技術の急速な進展により、統計学の果たす役割は一層重要となっています。新たなデータ環境は、私たちに技術的進化をもたらす一方で、倫理、信頼性、公共性といった根源的な問題にも直面させています。統計学はいま、量的拡



大の時代から質的深化の時代へと移行しつつあるのです。このような時代状況を踏まえ、私は次の三つの基本の方針のもとに学会運営に取り組む所存です。

1. 統計学の学術的基盤の一層の強化

統計学が他分野との連携において豊かな成果を挙げ続けるためには、これまでに築かれてきた厳密な理論的基盤を一層強化し、深化させていくことが重要です。現代的課題に応じた新たな理論的展開にも積極的に取り組んでいく必要があります。学会として統計関連学会連合と協力して、国際関係事業を推進するとともに、数理的基盤を強化することは、学会の将来にとって大きな意味をもちます。日本数学会、日本応用数理学会とも協調関係を深め、数理的手法の共有と相互理解を促進し、統計学の学問的自立性と創造性を支えて参ります。

2. 教育・人材育成と統計リテラシーの向上

今日、統計的思考とデータリテラシーは、研究者のみならず一般市民にとっても不可欠な基礎素養となっています。初等・中等教育への統計教育の導入、高等教育におけるカリキュラム整備、そして生涯学習としての統計教育の再構築は、まさに今を生きる社会の要請であります。本学会としては、統計教育委員会、質保証委員会の活動を通じて、また統計検定の実施母体である一般財団法人統計質保証推進協会との連携を推進して、教育支援活動をさらに強化して参ります。

3. 統計学の社会的信頼の確立と公共性の追求

統計学は、社会の意思決定を支える知の公共財としての側面をもっています。統計的情報の適切な解釈と活用は、政策立案、医療、産業、報道など、あらゆる場面において問われています。しかし一方で、誤った統計の使用や恣意的な解釈、さらには統計そのものに対する不信が拡がる場面も

散見されます。本学会は、行政統計の在り方に関する提言、メディアや教育界との連携、そして社会に対する広報・啓発活動など、多様なステークホルダーとの建設的対話を通じて、統計学の信頼性と有用性を社会に発信して参ります。

以上の三点を柱とし、狩野裕会長をはじめ、厚く信頼を寄せる心強い理事会の諸先生方とともに、着実にして活力ある学会運営を推し進めて参る所存です。あわせて、運営におきましては、透明性と公正性を基本理念とし、多様性と包摂性を尊重する観点から、ジェンダー平等の実現、若手研究者の育成支援、さらには学会の一層の国際化にも鋭意取り組んで参ります。

統計学の本質は、不確実性を受け入れつつも、その中に秩序と規則性を見出す知の営みにあります。その姿勢は、多様な価値観や背景を包摂し、共に学ぶ社会のあり方とも深く響き合います。私たち統計学者は、この不確実性の時代においてこそ、学問の良心として社会に貢献しうる存在でありたいと願います。今後とも、本学会の発展のため、皆様のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事長略歴

青嶋 誠（あおしま まこと）博士（理学）

1962年 静岡県生まれ

1992年 東京理科大学大学院理学研究科博士課程修了

2007年 筑波大学数理物質系教授 現在に至る

2024年 日本学術会議数理統計学分会委員長
現在に至る

2025年 統計関連学会連合理事長 現在に至る

研究分野：統計科学、数理科学、高次元統計解析
受賞：日本統計学会賞 2017年

文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）
2020年

4. 理事長退任のご挨拶

川崎 能典（統計数理研究所）

2025年6月7日の社員総会で2年間にわたる理事長の任期を終えました。月並みな感想ですが、始まる前は長いと思った任期も、終わったいま振り返れば、あつと言う間だったと感じています。

2年前の就任のご挨拶で申し上げた通り、今期理事会の最大のミッションは、JJSDの出版経費や連合大会でのプレナリーセッションの招聘費用を支える科研費の継続的獲得でした。これについては、科研費担当の植木優夫理事による会報202号への投稿記事でお知らせした通り、ギャップなしに更に5年の科研費が獲得できるという、最良の結果を得ることができました。

就任のご挨拶で「守成の難きを知る思いです」と記したのは、継続申請にあたっては「これまでに行っていない新規の取組を目標に掲げること」という難題があったからですが、首尾良く行ったのも、植木理事とJJSD編集長の増田弘毅理事に入念に申請書をご準備いただいたおかげと感謝しております。

統計人材の育成に関する社会・政府への発信ということでは、関係各位のご協力の下、2024年6月18日に盛山正仁文部科学大臣（当時）に「統計エキスパート人材育成事業」の強化に関する要望書を、照井伸彦会長と2人で提出して参りました。

統計エキスパート人材育成事業については、会報202号の巻頭随筆で中西寛子先生からご紹介いただきましたが、全国各地でデータサイエンス系学部・学科・コースの新設が相次ぐ中、統計教員の不足はますます深刻になっていると認識しています。要望書あつてのことかどうかはわかりませんが、幸い政府の骨太方針2025にも、先端技術に対応した人材育成に「統計人材の育成を含む」と書き込まれ、2026年度以降の事業実施に望みを残

したところです。

さて、2年間があつと言う間だったというのは、一般社団法人の運営の仕組みを理解した上で準備を整えて進めないと、たいしたこともできないうちに2年は過ぎる、ということでもあります。

学会事務のDX化については、前期以上に押し進めることはできませんでした。特に、選挙も含めた学会事務全般を電子化する機運が、樋口会長・大森理事長の時代に高まったにもかかわらず、その動きを継続・拡大することができなかったのは、悔いが残ります。

学会の資産運用に関しても、理事会、社員総会、役員・代議員協議会といった場で、見直しに関するご意見を時折いただきながら、手をつけることができなかったのも心残りです。

女性理事・委員の登用については、なんとか比率を下げないように個人的人脈の中で努力いたしました。が、短期間に候補集合を拡大することはもとより難しく、現状を大きく変えるような事には至らず、力不足を痛感しました。

そんな中、理事長としての密かな楽しみは、巻頭随筆をどなたに依頼するかを考えることでした。この2年間に期待に違わぬ内容でご寄稿くださった先生方に、この場を借りて感謝申し上げます。

最後に、会務運営にご協力くださった皆様、特に照井会長、理事の皆様、各委員会委員の皆様、春季集会においては会員でいらっしゃるのに実行委員としてご協力くださった方々の、無私のご献身に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。今後は監事という立場で理事会に残り、狩野会長、青嶋理事長をお支えいたします。

5. 第30回日本統計学会賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：南 美穂子氏

略歴：1982年 お茶の水女子大学理学部数学科卒業，日本ユニバック株式会社（現 BIPROGY），1990年 カリフォルニア大学サンディエゴ校数学部マスターコース修了，1993年 同 Ph.D. コース修了，Ph.D. 取得．1995年 東京理科大学理学部応用数学科助手，1999年 統計数理研究所助教授，2009年 慶應義塾大学理工学部数理科学科教授，現在に至る．

授賞理由：南美穂子氏は，制限付き最尤推定法を我が国に早期に導入し，欠測値を含む二変量正規分布下での相関係数推定への応用とその推定量の性質に関する理論的検討を行うなど，統計理論の発展に貢献してきた．また，離散分布論においてはラグランジュ展開に基づく分布族生成の研究や，多変量ラグランジュ分布族の多変量逆ガウス分布への収束に関する研究を行うなど，独創的な成果を挙げている．さらに，環境統計学，とくに生物資源評価の分野において，ゼロの多いデータのモデル化の理論研究や，サメの平均混獲数推定に関する水産学との学際的な共同研究を長年にわたり継続してきた．近年は回帰木や階層クラスタリングに関する研究も精力的に展開している．加えて，日本統計学会における諸委員会活動や，慶應義塾大学での教育・研究指導にも多大な貢献を果たしており，氏の功績はきわめて顕著である．南氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は，日本統計学会賞に相応しいものである．

主要業績：

[1] Minami, M. and Lennert-Cody, C. E. (2024). Regression tree and clustering for distributions, and

homogeneous structure of population characteristics, *Journal of Agricultural, Biological and Environmental Statistics*.

[2] Lennert-Cody, C. E., Maunder, M. N., Román, M.H., Xu, H., Minami, M. and Lopez, J. (2020). Cluster analysis methods applied to daily vessel location data to identify cooperative fishing among tuna purse-seiners, *Environmental and Ecological Statistics*, 27(4), 649-664.

[3] Minami, M., Lennert-Cody, C. E., Gao, W. and Román-Verdesoto, M. (2007). Modeling shark bycatch: The zero-inflated negative binomial regression model with smoothing, *Fisheries Research*, 84(2), 210-221.

[4] Minami, M. (2007). Multivariate inverse Gaussian distribution as a limit of multivariate waiting time distributions, *Journal of Statistical Planning and Inference*, 137(11), 3626-3633.

[5] Minami, M. and Shimizu, K. (1998). Estimation for a common correlation coefficient in bivariate normal distributions with missing observations, *Biometrics*, 54(3), 1136-1146.

[2] 受賞者氏名：西山 慶彦氏

略歴：1986年 京都大学経済学部卒業，1989年 京都大学大学院経済学研究科修士，2000年 ロンドン経済大学（London School of Economics and Political Science）博士課程修了 Ph.D.取得，1996年 名古屋大学情報文化学部講師，2001年 名古屋大学大学院環境学研究科助教授，2002年 京都大学経済研究所助教授，2005年 京都大学経済研究所教授，現在に至る．

授賞理由：西山慶彦氏は，ノンパラメトリックおよびセミパラメトリック統計手法の理論研究において，長年にわたり顕著な業績を挙げた．研

究の前半では、セミパラメトリック・モデルにおける有限次元パラメータの推定理論に取り組み、高次漸近展開を駆使した理論的解明を目指して一次の漸近理論では捉えきれないバンド幅やカーネル関数の影響を明らかにした。また、セミパラメトリック・モデルにおけるブートストラップ法の理論的正当性を確立した。研究の後半では、モデルの関数形を検証する特定化検定の分野において、非線形依存関係を含む一般的な Granger 型因果関係の検定や回帰関数の検定法などを多様なノンパラメトリック手法により提案し、応用可能性を大きく広げた。さらに、データ駆動型バンド幅使用時の検出力の厳密な評価や、検出力を最適化する新たなバンド幅選択法の開発など、実証研究のニーズに応える理論研究を精力的に行った。西山氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞に相応しいものである。

主要業績：

- [1] Nishiyama, Y., & Robinson, P. M. (2000). Edgeworth expansions for semiparametric averaged derivatives. *Econometrica*, 68(4), 931-979.
- [2] Nishiyama, Y., & Robinson, P. M. (2005). The bootstrap and the Edgeworth correction for semiparametric averaged derivatives. *Econometrica*, 73(3), 903-948.
- [3] Nishiyama, Y., Hitomi, K., Kawasaki, Y., & Jeong, K. (2011). A consistent nonparametric test for nonlinear causality—Specification in time series regression, *Journal of Econometrics*, 165(1), 112-127.
- [4] Hitomi, K., Iwasawa, M., & Nishiyama, Y. (2021). Optimal minimax rates against nonsmooth alternatives. *Econometrics Journal*, 25(2), 322-339.
- [5] Hitomi, K., Iwasawa, M., & Nishiyama, Y. (2023). Optimal minimax rates of specification testing with data-driven bandwidth. *Econometric Reviews*, 42(6), 487-512.

[3] 受賞者氏名：藤澤 洋徳氏

略歴：1992年 広島大学理学部数学科卒業，1997年 広島大学大学院理学研究科博士課程修了，博士（理学）取得，1997年 東京工業大学大学院情報理工学研究科助手，2001年 統計数理研究所准教授，2013年 統計数理研究所教授，2018年 理化学研究所革新知能統合研究センター客員研究員，2024年 統計数理研究所統計基盤数理研究系主幹，2024年 総合研究大学院大学執行役，現在に至る。

授賞理由：藤澤洋徳氏は、ロバスト統計およびスパース・モデリングの分野において顕著な研究業績を挙げてきた。ロバスト統計では、外れ値の割合が必ずしも小さくない場合でも潜在バイアスを十分に抑えるという独創的な観点から新たな頑健性の概念を導入し、当該分野の発展に大きく貢献した。また、スパース・モデリングの研究では、ゲノムデータや企業データの解析から着想を得て、応用上有用な手法を提案するとともに、理論的保証を伴った形で方法論を進展させた。これらの成果は、統計科学にとどまらず、機械学習やバイオインフォマティクスといった関連分野においても応用されている。さらに、統計学界の若手研究者育成にも熱心であり、総合研究大学院大学におけるデータサイエンス教育にも積極的に関与している。藤澤氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞に相応しいものである。

主要業績：

- [1] Fujisawa, H. and Eguchi, S. (2008). Robust parameter estimation with a small bias against heavy contamination. *Journal of Multivariate Analysis*, Vol. 99, 2053-2081.
- [2] Kanamori, T. and Fujisawa, H. (2014). Affine invariant divergences associated with composite scoring rules and their applications. *Bernoulli*, Vol. 29, 2278-2304.
- [3] Kanamori, T. and Fujisawa, H. (2015). Robust estimation under heavy contamination using unnormalized models. *Biometrika*, Vol. 102, 559-572.
- [4] Takada, M. and Fujisawa, H. (2020). Transfer learning via ℓ_1 regularization. *The 34th Annual*

6. 第5回日本統計学会中村隆英賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会中村隆英賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：川崎 茂氏

略歴：1975年 東京大学工学部卒業，総理府統計局，国連統計部（ニューヨーク）等を経て，2007年～2011年 総務省統計局長，2012年～2017年 日本大学経済学部教授，国連統計委員会議長，国際公的統計協会（IAOS）会長，応用統計学会会長，日本統計学会会長，統計委員会委員等を務める。現在，一般財団法人日本統計協会 理事長，滋賀大学データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター特別招聘教授。

授賞理由：川崎茂氏は多年にわたり統計行政に携わり，公務在職中及び退官後も一貫して経済統計を含む公的統計の作成・推計・分析等における改善・発達に多大な貢献をした。公的統計の作成手法に関する研究や，公的統計の基盤である統計制度の国際比較を行い，望ましい制度の在り方を研究し，特に，統計制度改革，経済センサスの創設，事業所母集団データベースの整備など実務面での重要な成果が多数ある。2007年に60年ぶりに行われた統計法の全面改正では中心的な役割を果たし，さらに経済センサスの創設に尽力し，2009年には最初の経済センサスの実施に至った。また，統計教育の発達・普及を率先して推進し，日本統計学会会長在任中は統計専門人材育成プロジェクトの設立・推進に尽力した。また，国際的な統計整備について日本としての積極的な発信・交流にも努めた。川崎氏の業績は，公的統計全般の発達・普及・啓発を通じて経済統計の分析，理論等の発展に寄与するものであり，中村隆英賞に

相応しい。

主要業績：

- [1] 川崎茂・上田聖（2024）「公的統計における総合的品質管理の取組」『統計数理』第72巻 第2号。
- [2] 川崎茂（2021～2025）「国際統計制度とは何か」『統計』第73巻 第1号～第76巻 第3号。（注各巻の奇数月の号に計26回にわたり掲載）
- [3] 川崎茂（2020）「日本の統計学の歴史的発展における公的統計の役割」『日本統計学会誌』第49巻 第2号，pp.161-186。
- [4] 川崎茂（2021）「コロナ禍における世界と日本の国勢調査」『社会と調査』第27巻，pp.112-113。
- [5] 川崎茂（2019）「統計制度の国際比較－日本の統計制度の特徴と課題」『統計と日本社会 データサイエンス時代の展開』（国友直人・山本拓編）東京大学出版会，pp.237-251。
- [6] 川崎茂（2019）「品質管理と専門性の向上による信頼性の確立－毎月勤労統計調査の不正問題からの教訓」『統計』第70巻，pp.18-21。
- [7] Kawasaki, S. (2015). The challenges of transportation/traffic statistics in Japan and directions for future, *International Association of Traffic and Safety Sciences Research*, Vol. 39, pp.1-8.
- [8] 川崎茂（2010）「公的統計の新たな方向を目指して：統計局長の役割」『統計』第61巻 第12号，pp.14-21。
- [9] 川崎茂（2005）「日本の統計制度を考える－国際比較の観点から」『統計』第56巻 第1号，pp.13-28。
- [10] 川崎茂・赤坂歩（2003）「アメリカの経済センサス」『統計』第54巻 第6号 第8号。（注3回

にわたり掲載)

- [11] 川崎茂 (2001)「統計の品質評価」『統計』第52巻 第1号, pp.13-17.
- [12] 川崎茂 (1996)「求職意欲喪失者は潜在的失業者か?」『統計』第47巻 第7号, pp.43-48.
- [13] 川崎茂 (1993)「統計提供における秘密保護」『統計』第44巻 第1号～第3号. (注 3回にわたり掲載)
- [14] 川崎茂・福井武弘・會田雅人 (1989)「諸外国におけるビジネスフレームの整備」『統計』第40巻 第10号. (注 第41巻第7号まで8回にわたり掲載)
- [15] 川崎茂・小林國夫 (1988)「ホットデック法の決め付け誤差の評価方法に関する考察」『統計局研究彙報』第46巻, p79-95.
- [16] 川崎茂 (1985)「昭和55年国勢調査の同居児表による出産力の推計結果」『統計局研究彙報』第44巻.

[2] 受賞者氏名: 長岡 貞男氏

略歴: 1975年 東京大学工学部卒業, 1975年 通商産業省入省, 1980年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院卒業 (経営学修士), 1990年 Ph.D in Economics (マサチューセッツ工科大学), 1992年 成蹊大学経済学部教授, 1996年 一橋大学商学部教授, 1997年 同イノベーション研究センター教授, 2015年 一橋大学名誉教授・東京経済大学経済学部教授, 2023年 同大学退職. 現在, 経済産業研究所のプログラム・ディレクター (イノベーション分野).

授賞理由: 長岡貞男氏は, 統計分析を活用したイノベーション研究において顕著な貢献を果たし, 国際的にも高い評価を受けている. 著書『発明の経済学』は日経・経済図書文化賞を受賞するなど, 多くの研究成果を挙げている. 特に, 特許制度改革の統計分析による研究は, エビデンス・ベースの政策形成に先駆的な役割を果たした. 加えて, 発明者レベルのデータを集約した新たな統計データの開発と分析においても国際的に重要な役割を果たし, 発明の創造過程や商業化過程の理

解を深めることに貢献した. さらに, 知的財産分野の統計を政府や企業の意思決定に活用するための整備や事例創出にも尽力し, 特許庁の知的財産活動調査への助言や OECD 主催の国際会合での知的貢献など多岐にわたる活動を展開した. これらの実績は2021年4月の経済産業大臣表彰受賞によっても裏付けられている. 長岡氏の研究と普及活動は, 経済統計の発展に大きく寄与するものであり, 中村隆英賞に相応しい.

主要業績:

- [1] 『発明の経済学: イノベーションへの知識創造』, 2022年, 日本評論社.
- [2] “Assessing the R&D Management of a Firm in Terms of Speed and Science Linkage: Evidence from the US Patents,” 2007, *Journal of Economics & Management Strategy*, 16(1), 129-156.
- [3] “Patent Statistics as an Innovation Indicator,” 2010, *Handbook of the Economics of Innovation*, Vol. 2, (edited by Hall, Bronwyn H. and Nathan Rosenberg), Oxford: Elsevier (with Kazuyuki Motohashi and Akira Goto)
- [4] “An economic analysis of deferred examination system: Evidence from a policy reform in Japan,” 2015, *International Journal of Industrial Organization*, 39, 19-28. (with Isamu Yamauchi)
- [5] “Making the Patent Scope Consistent with the Invention: Evidence from Japan”, *Journal of Economics & Management Strategy*, 2018, 27(3), 607-625. (with Okada Yoshimi, Yusuke Naito)

[3] 受賞者氏名: 国友 直人氏

略歴: 1975年3月 東京大学経済学部卒業, 同大学院経済学研究科を経て1981年7月 (米国) スタンフォード大学大学院卒業 (統計学 MA, 経済学 Ph.D.), (米国) ノースウエスタン大学経済学部助教授, 東京大学経済学部助教授・教授, 明治大学政治経済学部特任教授を経て2021年9月より統計数理研究所特任教授 (大学統計教員養成センター), 東京大学名誉教授, 現在に至る.

授賞理由: 国友直人氏は, 計量経済学および計量

ファイナンスの統計モデル推測理論において優れた研究業績を挙げるとともに、公的統計の作成を担う官公庁の実務者に対し長年にわたり積極的に助言を行ってきた。特に、1998年に米国センサス局が公表した季節調整法 X-12-ARIM に関して多数の解説論文を発表し、実務者の理解促進に大きく貢献した。また、実務家からの相談事例を基に、取組む価値のある課題を学术界に示し続けてきた。さらに2016年9月からは総務省の「速報性のある包括的な消費関連指標の在り方に関する研究会」座長を務め、新指標の作成方法および体系化の在り方、単身モニター調査パネルデータ、供給側データ、ビッグデータの変動分析、バイアス補正及び合算方法、家計調査、家計消費状況調査の推計及び合算方法、公表の一体化、などの問題に検討を行い2017年3月に報告書を公表した。このような国友氏の経済統計の方法論研究と実務の両面での多年にわたる顕著な功績は、中村隆英賞に相応しい。

主要業績：

- [1] 「ベンチマーク問題と経済時系列：GDP 速報とGDP 確報を巡って」, 2011年4月, 経済学論集（東京大学経済学部）, 2-19, 77-1. (川崎能典氏との共同)
- [2] 「GDP 速報の推定法の改善について」, 2010年11月, 経済学論集（東京大学経済学部）, 76-3, 2-21. (佐藤整尚氏との共同)
- [3] 「日本のマクロ経済統計の課題：季節性・構造変化・平滑化問題」, (加納悟教授追悼記事), 2010年4月, ミネルバ書房. (佐藤整尚氏との共同)
- [4] 「景気判断と平滑化問題：GDP 公表値を巡って」, 経済学論集（東京大学経済学部）, 2010年7月, 76-2, 72-87. (佐藤整尚氏との共同)
- [5] 「最近のマクロ経済変動と季節調整（貿易統計を題材に）」, 経済学論集（東京大学経済部）, 2010年10月, 76-1, 56-74. (高岡慎氏との共同)
- [6] 「経済季節性と季節転換時系列モデル」, 2005年9月, 日本統計学会誌, 35-1, 1-26. (高岡慎氏と共著)
- [7] 「季節調整法X-12-ARIMA (2000) の利用：法人統計の事例」, 2001年10月, 経済学論集, 67巻3号, 2-29.
- [8] 「経済時系列の状態推定とマクロ指標」統計研究彙報, 2022年3月, 第79号, 1-20. (櫻井智章・佐藤整尚氏との共著)
- [9] “A robust-filtering method for noisy non-stationary multivariate time series with econometric applications,” *Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD)*, 2021, 4, 373-410. with S. Sato, Open Access.
- [10] *The SIML Filtering Method for Noisy Non-stationary Economic Time Series*, with Seisho Sato, Springer, 2025年2月.

7. 第21回日本統計学会統計活動賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会統計活動賞は、以下のよう授与することが決まりました。

受賞者氏名：中間 栄治 氏・岡田 昌史 氏（共同受賞）

活動：統計解析システム R の日本語化と普及に関する活動

授賞理由：統計解析システム R は現在、世界的

に統計学の中心的ソフトウェアの一つであるが、当初は英語圏の研究者を中心に開発されていたため、日本での普及には日本語化が不可欠であった。中間栄治氏はボランティアとして R の日本語化に着手し、そのプログラムは R 開発者コミュニティから高く評価されるとともに、後の多言語化の端緒となった。その中で中間氏は R に直接貢献した数少ない日本人の一人である。岡田昌史氏

は R のメッセージの日本語化に大きく貢献しただけでなく、情報交換サイト「RjpWiki」を長年運営し、日本における R の普及に顕著な役割を果たした。これらの功績は、日本における R を利用し

た統計研究および応用の基盤を支える重要な活動として高く評価されるものである。以上の実績は、統計活動賞に相応しい。

8. 第21回日本統計学会統計教育賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会統計教育賞は、以下のよう授与することが決まりました。

[1] 受賞団体名：独立行政法人統計センター

略歴：独立行政法人統計センターは、2003年に設立された独立行政法人（総務省所管の行政執行法人）で、総務省統計局所管の国勢調査をはじめとする基本となる統計の作成（製表）を行うほか、各府省や地方公共団体の委託を受けた統計作成を行い、これらの機関の統計整備を支援している。さらに、公的統計の業務基盤・利用基盤の提供業務（政府統計の総合窓口（e-Stat）、オンライン調査システム、事業所母集団データベースなど）や、公的統計の二次利用サービスの提供業務（オンライン利用による調査票情報の提供、オーダーメイド集計、匿名データの作成・提供など）を行うなど、日本の公的統計制度を支える役割を担っている。

前身は総理府統計局製表部で、1984年の総務庁設置時に統計局と別組織の統計センターとなり、2003年に総務省所管の独立行政法人統計センターとして発足し、2015年に特定独立行政法人から行政執行法人へ移行している。

授賞理由：独立行政法人統計センターは、統計教育において顕著な実績を残している。第一に、教育用標準データセット（SSDSE）の作成と普及である。政府統計 e-Stat からデータを取得する際、検索や抽出に時間を要し、欠損値の前処理も必要となるが、SSDSE はこれらの手間を省き、すぐに分析に利用可能なデータ素材を提供する。特に中学校・高等学校の統計教育では、データ活用の

ノウハウが十分でない中、探究学習も視野に入れた幅広い分野をカバーし、利用の容易さから高い価値を持つ。2024年には約20万件のダウンロード実績があり、広く活用されている。第二に、統計データ分析コンペティションの開催と普及の取り組みは、課題設定からデータの収集・分析、結果の考察までの流れを論文の形にまとめることが求められるため、統計分析による探究活動の課題として大変有用な活動である。以上の独立行政法人統計センターの実績は、統計教育賞に相応しい。

[2] 受賞者氏名：新井 仁氏

略歴：1989年東京学芸大学教育学部卒業、その後諏訪市立上諏訪中学校、安曇村立大野川中学校（現松本市立）、真田町立真田中学校（現上田市立）、信州大学教育学部附属長野中学校、長野市立柳町中学校各校教諭、国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官、長野県総合教育センター教科教育部主任指導主事を経て、2018年4月より都留文科大学教養学部学校教育学科に勤務、現在に至る。2021年3月教職修士（専門職）学位取得。

授賞理由：新井氏は現職教諭時代からリアルデータを活用したデータサイエンス的発想を重視し、2008年告示の学習指導要領改革に対応した問題解決型授業の実践に積極的に取り組んできた。特に統計内容の顕在化の重要性を早期に認識し、『新領域「資料の活用」の授業プラン』（明治図書）にまとめている。さらに、統計的探究プロセスにおける批判的思考の役割に着目した研究を進め、その成果は『統計的探究プロセスにおける批判的

思考の様相とその役割に関する研究』（東洋館出版社）として結実した。また、統計的探究・数学的活動・批判的思考の三要素を体系化し、教員研修や授業実践に資する模式図を作成するなど、教育現場に貢献している。これらの取り組みは、

2021年度からの学習指導要領改訂による統計教育の拡充にもつながり、新井氏の研究と実践が推進に寄与している。以上の新井氏の業績は、統計教育賞に相応しい。

9. 第19回日本統計学会研究業績賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：柳 貴英氏

略歴：2008年4月に九州大学経済学部にて三年次編入学し、2010年3月に卒業。その後、京都大学大学院経済学研究科修士課程に入学し、2012年3月に修了。その後、同研究科博士後期課程に進学し、2015年3月に研究指導認定退学、同年5月に京都大学博士（経済学）を取得。同年3月に一橋大学大学院経済学研究科に特任助教として着任し、2016年4月から2018年8月まで同研究科の専任講師を務めた。2018年9月からは京都大学大学院経済学研究科に戻り、2020年3月まで特定講師、同年4月から2023年12月までテニュア・トラック専任講師を務めた。2024年1月に同研究科の准教授に昇任し、現在に至る。

授賞理由：柳貴英氏は、調査対象間にデータとしては観測されない異質性や相互作用を含む実証的状况に対応可能な計量経済分析の研究を行っている。これは大規模個票データの活用を背景に実現した先進的なアプローチであり、現代経済理論の潮流とも一致し、経済学および計量経済学のフロンティアを拡大させる研究である。特に、近年の社会科学の中心的テーマのひとつである因果推論を用いた政策介入効果の分析手法の開発や、パネルデータ分析におけるクロスセクションの異質性の分布やその特徴をノンパラメトリックに推定・分析する手法を提案している。これらの研究成果は、*Journal of the American Statistical Association*,

Journal of Econometrics, *Econometrics Journal*, *Journal of Causal Inference* などの国際的に権威ある学術誌に掲載されており、統計学と計量経済学の発展に多大な貢献を果たしている。以上の柳氏の研究は研究業績賞に相応しい。

主要業績：

- [1] “Causal inference with noncompliance and unknown interference” (with Tadao Hoshino) *Journal of the American Statistical Association*, 119(548), 2869-2880, 2024.
- [2] “Treatment effect models with strategic interaction in treatment decisions” (with Tadao Hoshino) *Journal of Econometrics*, 236(2), 105495, 2023.
- [3] “Estimating marginal treatment effects under unobserved group heterogeneity” (with Tadao Hoshino) *Journal of Causal Inference*, 10(1), 197-216, 2022.
- [4] “Kernel estimation for panel data with heterogeneous dynamics” (with Ryo Okui) *The Econometrics Journal*, 23(1), 156-175, 2020.
- [5] “Panel data analysis with heterogeneous dynamics” (with R. Okui) *Journal of Econometrics*, 212(2), 451-475, 2019.

[2] 受賞者氏名：清水 泰隆氏

略歴：1999年 東京大学理学部数学科卒業、1999年 第一生命保険相互会社入社、2001年 東京大学大学院数理科学研究科博士前期課程入学、2005年 同後期課程中退、同年大阪大学大学院基礎工学研究科助手、2007年 同助教、2011年 同准教授、2014年 早稲田大学理工学術院准教授、2017年 同教授。

現在に至る。

授賞理由：清水氏は、確率過程の漸近推測論と保険数理を融合し、特に保険リスク理論の分野で理論と実務を結ぶ革新的な研究を数多く発表している。破産理論においては、リスク過程の離散観測を導入し、レヴィ過程に基づく一般化リスク過程でも破産確率や Gerber-Shiu 関数が推定可能であることを示した。さらに、推定量の誤差評価や漸近分布の導出により、破産リスク理論の実用性を飛躍的に高めている。加えて、独自の Survival Energy Model による死亡率予測では、少数のパラメータで長期的かつ高精度な予測を実現し、新たな死亡率予測モデルとして評価されている。理論統計の分野でも、非エルゴード的確率過程やガウス過程、遅延確率微分方程式に対する微小ノイズ型漸近理論を活用した統計理論を構築し、保険データ解析のモデリングと活用に新たな可能性を拓いた。これらの卓越した業績は理論と実務双方に大きく貢献しており、研究業績賞に相応しい。

主要業績：

[1] Irie, H. and Shimizu, Y. (2024). Approximation and estimation of scale functions for spectrally

negative Lévy processes, to appear in *Journal of Applied Probability*; arXiv:2402.13599.

[2] Nemoto, H. and Shimizu, Y. (2024). Statistical inference for discretely sampled stochastic functional differential equations with small noise, *Statistical Inference and Stochastic Processes*, 27 (2), 427–456.

[3] Kobayashi, M. and Shimizu, Y. (2023). Threshold estimation for jump-diffusions under small noise asymptotic, *Statistical Inference and Stochastic Processes*, 26, 361–411.

[4] Nakamura, S. and Shimizu, Y. (2023). Estimating the finite-time ruin probability of a surplus with a long memory via Malliavin calculus, *Research Papers in Statistical Inference for Time Series and Related Models*, 455–474.

[5] Shimizu, Y. (2021). *Asymptotic Statistics in Insurance Risk Theory*, SpringerBriefs in Statistics, Springer, Singapore.

[6] Shimizu, Y.; Minami, Y. and Ito, R. (2020). Why does a human die? A structural approach to cohort-wise mortality prediction under Survival Energy Hypothesis, *ASTIN Bulletin*, 51 (1) 191–219.

10. 第18回日本統計学会出版賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会出版賞は、以下のよう
に授与することが決まりました。

[1] **受賞出版物：**この1冊ですべてわかる データサイエンスの基本（日本実業出版社）

受賞団体名：滋賀大学データサイエンス学部

授賞理由：本書は、滋賀大学のデータサイエンス教育における課題解決型学習（PBL）演習の実践成果を体系的にまとめたものである。近年、多くのデータサイエンス学部でPBL演習が重要な位置を占めるなか、具体的な教育内容や効果的な指導方法に関する共有の場が不足している。本書は、学生自身が執筆した発表内容を初心者にも理

解しやすい形で編集しており、教育現場における貴重な指針となる点が特筆される。また、2025年から「情報Ⅰ」必修世代が大学へ進学し、2024年には多くの高校が「DXハイスクール」に認定されるなど、高校段階でのデータサイエンス・統計教育が急速に拡大している。しかし、指導者や教材の不足は依然として課題であり、本書は高校の情報教育の教材としても大いに活用可能である。さらに、特別な予備知識を持たない一般社会人にも配慮し、データサイエンスの実用的な活用法をやさしく解説している点も評価できる。これにより、幅広い層にデータサイエンスの魅力を伝え、さらなる学習への入口として機能する書籍であ

る。以上の理由から、本書は統計学の普及・教育に資する重要な出版物として、日本統計学会出版賞に相応しい。

[2] 受賞出版物：統計学One Pointシリーズ（既刊28巻，直近5年刊行第18巻～第28巻，共立出版）
受賞者：鎌倉 稔成氏・共立出版（共同受賞）
授賞理由：「統計学 One Point シリーズ」は，統計学の個々の要素を構成する考え方や手法に焦点を当て，特に注目しておきたい概念や手法，またつまずきやすいポイントなどに要点を絞り，第一線で活躍している経験豊かな著者が，明快に解説

していく書籍シリーズである。教科書などでは一節または一章分程度でしか扱われないテーマも，一冊の本として詳しく解説されており，周辺の知識を習得し，深い理解を獲得できる。従って，基礎的な知識を習得したい学部生や大学院生，統計学のさまざまな応用分野で統計的分析を行う実務家，数理統計学の専門家をめざす大学院生や研究者らが，各々の目的と理由で気軽に手に取れる書籍シリーズとなっている。以上の理由により，統計学の知見を広く普及させるという社会的な貢献を果たしており，本シリーズは日本統計学会出版賞に相応しい。

11. 第39回日本統計学会小川研究奨励賞について

照井 伸彦（前日本統計学会会長）

2025年度の日本統計学会小川研究奨励賞は，以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：石原 卓弥氏

略歴：2015年 京都大学経済学部卒業，2017年 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了，2020年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了，2020年 日本学術振興会特別研究員，2021年 東北大学経済学研究科助教，2022年 東北大学経済学研究科講師，2023年 東北大学経済学研究科准教授，現在に至る。

授賞論文：

- [1] Ishihara, T. (2021). “Partial identification of nonseparable models using binary instruments.” *Econometric Theory*, 37(4), 817-848.
- [2] Ishihara, T. (2023). “Panel data quantile regression for treatment effect models.” *Journal of Business & Economic Statistics*, 41(3), 720-736.
- [3] Ishihara, T. (2023). “Bandwidth selection for treatment choice with binary outcomes.” *The Japanese Economic Review*, 74(4), 539-549.
- [4] Kurisu, D., Ishihara, T., & Sugasawa, S. (2025). “Adaptively robust small area estimation: Balancing

robustness and efficiency of empirical Bayes confidence intervals.” accepted at *Scandinavian Journal of Statistics*.

受賞論文の評価：石原卓弥氏はこれまでミクロ計量経済学の理論研究を行い，個票データを用いた経済データの分析手法の開発に取り組んできた。論文 [1] では，推定対象の単調性や凹性を用いることで2値の操作変数がある場合の非分離的モデルが部分識別できることを示した。論文 [2] はパネルデータを用いた分位点処置効果の新しい2段階推定方法を開発し，その推定量の一致性と漸近正規性を示した。また，提案した推定量を用いて，農業保険が農家の生産性に与える影響とテレビ視聴が子供の認知能力に与える影響についても分析した。論文 [3] は結果変数が2値の場合の処置選択問題をについて分析し，ミニマックスリグレット基準に基づく最適なバンド幅選択方法を提案した。論文 [4] では，ロバスト性と効率性をバランスさせる γ -divergenceを用いた新たな経験ベイズ法を提案し，分布が正しく特定化されている場合と外れ値が存在する場合の両方の漸近的な性質を分析した。これらの論文で提案された手法は現実の経済データ分析への応用を意識して

おり、実際の応用の問題意識に基づいて開発されている。以上により、石原氏の研究は小川研究奨励賞に相応しいものである。

[2] 受賞者氏名：仲北 祥悟氏

略歴：2016年 国際教養大学国際教養学部卒業、2021年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了、2021年 東京大学総合文化研究科先進科学研究機構特任助教、2025年 東京大学総合文化研究科先進科学研究機構特任講師（予定）現在に至る。

授賞論文：

- [1] Nakakita, S., and Imaizumi, M. (2025). Benign overfitting in time series linear models with over-parameterization. *Bernoulli*, in press.
- [2] Nakakita, S. (2024). Parametric estimation of stochastic differential equations via online gradient descent. *Japanese Journal of Statistics and Data Science*, in press.
- [3] Nakakita, S., Alquier, P., and Imaizumi, M. (2024). Dimension-free Bounds for Sums of Dependent Matrices and Operators with Heavy-Tailed Distributions. *Electronic Journal of Statistics*, 18(1): 1130–1159.

受賞論文の評価：仲北祥悟氏は、高次元統計学や確率過程の解析に関する幅広い領域で、統計モデル・推定量の有効性を検証する理論の構築、およびそれを活用した統計手法の開発を推進している。論文 [1] は非スパース高次元従属過程に対する線形回帰の良性過適合現象を理論的に解析し、従属性と非定常性の下での良性過適合現象を理論的に特徴付け、非スパース高次元従属な設定でも良い推定が実現できる十分条件を導出した。論文 [2] は離散時間観測下での確率微分方程式に対するオンライン推定手法を提案し、計算量の大きな削減を実現しその理論保証を与えた。論文 [3] は従属構造を持つ多次元確率過程の標本共分散行列の次元非依存な集中不等式を導出し、従属する標本からも次元に依存しない形で共分散行列から推定できることを示した。これらの一連の研

究は、仲北氏の数理的な知識と経験に基づく堅実な貢献であることに加えて、大規模モデルといった現代的なデータ解析技術の発展に動機付けられたものであり、最先端技術に対して数理的な基盤を構築するという重要な意義を持つものである。以上により、仲北氏の研究は小川研究奨励賞に相応しいものである。

[3] 受賞者氏名：奥戸 道子氏

略歴：2015年 東京大学工学部計数工学科卒業、2018年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)、2020年 東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了、2020年 東京大学大学院情報理工学系研究科助教、現在に至る。

授賞論文：

- [1] Okudo, M. and K. Yano (2024). Matching prior pairs connecting Maximum A Posteriori estimation and posterior expectation. *Bayesian Analysis*, Advance Publication.
- [2] Okudo, M. and F. Komaki (2024). Predictive densities for multivariate normal models based on extended models and shrinkage Bayes methods. *Electronic Journal of Statistics*, vol. 18, 3310–3326.

受賞論文の評価：奥戸道子氏は情報幾何の基礎理論と計算統計への応用の研究に取り組み、ベイズ統計に現れる推定量や予測分布についての幾何的な性質と、それを数値計算に活かすための手法の開発を行ってきた。論文 [1] ではベイズ統計に現れる事後平均と MAP 推定量の差を幾何的な量で表現し、2つが漸近的に一致する事前分布のペアを求めてその計算法を提案した。論文 [2] では平均未知・分散共分散行列既知の多変量正規分布に対して、分散共分散行列に対して射影を用いた新たな推定量を構成することで、複雑な形を持つベイズ予測分布ではなく正規分布の範囲で Jeffreys 事前分布のベイズ予測分布を改良する予測分布を構成した。これらの研究では情報幾何的な性質が実装可能で効率の良い計算法の開発につながっており、理論と計算の両方が見据えられている点が評価できる。研究成果は Bayesian Analysis など

の国際的に評価の高い学術誌に発表し、情報幾何分野に新しい視点から先駆的な研究を行っている。以上により、奥戸氏の研究は小川研究奨励賞に相応しいものである。

[4] 受賞者氏名：藤森 洸氏

略歴：2015年 早稲田大学基幹理工学部卒業，2019年 早稲田大学大学院基幹理工学研究科博士後期課程修了，2019年 早稲田大学基幹理工学部数学科 講師（任期付き），2020年 信州大学経済学部応用経済学科 講師，2023年より同准教授，現在に至る。

授賞論文：

- [1] Fujimori, K., Goto, Y., Liu, Y., & Taniguchi, M. (2023). Sparse principal component analysis for high-dimensional stationary time series. *Scandinavian Journal of Statistics*, 50(4), 1953-1983.
- [2] Fujimori, K.(2022). The variable selection by the Dantzig selector for Cox's proportional hazards model. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 74, 515-537.
- [3] Fujimori, K. (2019). The Dantzig selector for a linear model of diffusion processes, *Statistical Inference for Stochastic Processes*, 22, 475-498.

受賞論文の評価：藤森洸氏は、高次元確率過程の統計解析をテーマとして研究を展開し、スパース推定の理論的枠組みの構築に取り組んできた。とくに従来のダンツィーグ・セレクトターという手法を確率過程に適用し、その理論的性質を明らかにしている。論文 [1] では、スパース主成分分析手法に着目して、定常時系列データに枠組みを広げ、高次元の設定のもとで本手法の誤差評価を理論的に導出した。論文 [2] では、ダンツィーグ・セレクトターによる変数選択に着目し、高次元共変量を含む Cox 回帰モデルにおいて、回帰係数のスパース推定のみならず、累積ハザード関数の漸近正規推定量を構成し、数値実験及び実データ解析を通じてその推定精度を評価している。論文 [3] は、高次元拡散過程モデルにダンツィーグ・セレクトターを適用した基礎的な論文で、ダンツィーグ・セレクトターの漸近挙動を明らかにし、変数選択の一致性および母数推定の一致性の両方を理論的に示した。以上のように、藤森氏はスパース性のある高次元確率過程の統計解析において、様々な応用をもつ新規な統計手法を確率過程へ理論的適用範囲を広げ、革新的な理論成果を複数挙げている。以上により、藤森氏の研究は小川研究奨励賞に相応しいものである。

12. 第7回細谷賞授賞について

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名誉教授の統計学界における教育・研究への貢献を記念して、広く人文・社会科学分野における若手研究者のデータ科学研究を奨励するため、2018年に細谷賞を創設しました。2025年3月31日を期日に第7回受賞候補者の公募を行い、学外者を含む選考委員会を設け、慎重な審査・選考を行いました。ここに選考結果を報告します。なお、本賞は

松田 安昌（東北大学大学院経済学研究科）

東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学会の後援により実施しています。

第7回受賞者なし

東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科学研究センター
松田安昌（選考委員長）

13. 2025・2026年度会長選挙開票報告

川久保 友超・長谷川 翔平（2025・2026年度会長選挙管理委員）

本学会会長選挙規程第6条による2025・2026年度会長候補者に対する選挙が行われ、2025年4月24日（木）、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名（川久保友超、長谷川翔平）に

より開票した結果、狩野裕氏が被選会長として当選しました。有権者数1,300名中、投票数375、うち有効票数374で、内訳は、賛368、否6、無効票数1でした。

14. 2024年7～12月統計検定 CBT 方式試験の成績優秀者

狩野 裕（日本統計学会会長）

青嶋 誠（日本統計学会理事長）

準1級

最優秀成績賞（S）：安田大輝、伊藤慧、井齋友春、稲垣湧介、塩田倫平、河村圭将、栗原駿太、戸田一志、今井亨、佐藤一樹、佐藤慶樹、佐藤柚花、佐野明日香、坂西嵩史、三谷卓矢、山本和也、山縣尚史、若杉健介、小宮由信、小杉まどか、小野洋樹、松下将大、松田雅直、松田光司、松田陽介、杉山恭平、西森建、赤川秀哉、川瀬寛将、村上正悟、村上智彦、大垣良雄、大森豊、大塚悠真、大澤裕一、谷口誠弥、池ヶ谷紘人、中西亮介、中村和也、長田尚真、天野領太、筒井偉宝、藤川皓一朗、道橋陸、福永怜史、野澤誠瑛

優秀成績賞（A）：伊澤聡史、奥野智貴、河本歩夢、丸山徹、丸山虹樹、岩本昂也、宮本優人、近藤竜太郎、熊坂朋彦、兼松俊介、古屋裕崇、戸田幸典、後藤翔吾、佐々木星弥、佐藤信吾、坂本佳樹、阪口彬、作田大輔、山元颯太、山口滉太、山田太雅、氏部優弥、持田悠太郎、若林颯、出雲混己、小松崎大輝、小野澤竜馬、松田祥吾、新出宏樹、森達哉、森楓、清宮輝優、西村浩人、青木友哉、前川尚輝、前田和樹、村上嘉哉、村田匡、池田響樹、中井智久、中桐克之、長谷川大朗、長内哲紀、長南和希、長友那豊、田中智崇、田鍋帆稀、田鍋帆稀、渡邊大司、藤岡秀光、藤本翔士、藤野孝彦、武田岳、平原健翔、木本雄太、野田ひ

と美、矢後優翔、柳田歩、林直輝、鈴木徳馬、和田聡、濱田卓、高橋章将

2級

最優秀成績賞（S）：永井暁良、岸本真、菊池洗希、久保貴俊、坂西嵩史、柴山佐内、松下耀馬、水上竣裕、西村祐太郎、石田圭、大森貴文、大西悠平、大坪快、谷川央周、中村昌樹、中村繁成、堂園昂佑、林宏明、濱雄大

優秀成績賞（A）：安東權、越前谷直之、横山拓功優、王宇セン、荻野駿、河合悠希、岩下勇我、菊地隆之、菊池翔太、吉川真太郎、吉田拓司、久保田菜摘、久保和輝、宮本翔太、宮本翔太、橋本壮平、栗林諒、鉾開裕仁、原田浩輔、五島豊、伍炳権、黒田慈瑛、今野貴文、佐藤修夢、佐藤友亮、佐藤悠、佐伯昭佳、細矢光貴、三上諒、三部文香、山下晃毅、柴田紘希、重田大介、小山徹、小出裕太郎、小田切優作、小路口望、庄村拓也、上野樹、森山周太、仁木雅章、菅原佳奈子、成見輝、石橋歩峻、石倉大輔、川原悠豊、川崎開智、泉和男、曾我部信広、早弓蓮人、増川健人、村上由佳、大澤裕一、竹内理人、中山樹、中村和也、鳥居潤、槻宅典亮、田口陽介、田代知暉、田中友悠、田中裕暉、渡邊諒、渡邊翔太、渡邊顕、土屋竜助、東野湧字真、藤本晃成、南和宏、布川大

知，部谷柊翔，服部謙吾，北出貴章，木村郁夫，木村隆允，鈴木悠太，鈴木和人，櫻井慶弥，高橋真也

3級

最優秀成績賞（S）：井上尊生，衛藤舜一，奥田晴生，岡田奈央，岡本知幸，河原田賢治，粥川隆信，吉田敬，吉田遥人，宮武和咲，金丸宙，金子愛，栗原空那，原一貴，戸口敦，御供田将士，香川英介，高井伸太郎，堺翔，寺島匠之助，秋竹駿杜，小山内詞音，小田知典，松宮友一，松山健司，松島良介，松本拓也，新村凌大，森勇人，石上昂汰，赤澤拓海，川口菜穂，大泉綾亮，竹瀬俊輔，竹本光佑，中野裕介，天羽瞭真，田中亮佑，田島恵美，楠朋也，白川洋，平塚彩子，榎村嵩志，綿引亮太，木村僚，木村良輔，矢野健太郎，林克典，澤上拳明，澤村悠司

優秀成績賞（A）：おおにししゅうや，ルーク有晏，伊藤大輔，園田訓大，塩見真里奈，横山敏文，横田忠顕，岡崎光希，岡部洋介，加茂康平，河村梨菜，河添有宏，岩倉直大，亀尾虎太郎，菊井万維，吉原優，吉仲崇，吉田智紀，宮本煌大，橋本裕，金子恭大，原良太，工藤翼，幸山蒼，荒井裕太郎，高橋泰史，高木媛理佳，高野雄誠，黒川航佑，黒目浩太，黒澤祐貴，今井祐太，今峰裕輔，佐藤征大，佐藤翔太，坂東玄，三浦清楓，紫垣修平，寺尾正人，酒井永翔，秋山美帆，初野佑介，勝木陽大，小口香苗，小崎貴輝，小山佳哲，小杉拓生，松中悠里，松本敏明，上村健人，上田和正，新井佳奈子，新藤蘭美，新美雅尚，森山太貴，森亮輔，榛葉ありす，尋木みか，杉浦有輝，菅原佳奈子，盛田竜輝，西川賢太郎，先崎拓真，千田幸生，泉井菜摘，前山珠悠，前川哲平，善博聖，増谷侑也，太田尚吾，大曾根琢磨，竹中美奈実，竹内智哉，竹尾正敏，中家隆太，中村結和，中村優太，中津翔也，中塚力，中島和也，塚本浩章，天部健，田中秀，田中陽希，田澤安曇，渡邊信斗，土井一真，土橋有奈，藤塚拓実，藤本悠也，二村奈実乃，白石哲也，八木歩乃実，樋口慎之助，富田和義，武藤玲音，福井悠紀，福嶋柊

也，平松征洋，北本啓，本間宣弘，野口耕一，野口大輝，野村憲司，矢野陽介，林健太郎，老山順之，和田侑紗，澤田亮介，澤博康，高橋浩一

4級

最優秀成績賞（S）：伊丹裕亮，浦井亮一，萱原宏明，関根秀明，金持瞳，小島貴弘，上田泰将，西村有希，西村祐太郎，西濱瑛太，川崎裕聖，中村ゆう子，猪亦佑也，渡邊裕樹，藤岡心和，日向正樹，馬場優多，武藤海里衣，福井悠紀，堀亮介，本多沙織，野本駿介，鈴木章太

優秀成績賞（A）：伊澤裕樹，宇都宮瑠衣，雨宮大輔，永富朱莉，遠田美希，岡光希，岡田真，間野貴之，吉田なのは，吉田武司，吉武大耀，久米秀典，弓削悠乃，原田滯，工藤考平，溝口有沙，高野瑞貴，合田麟太郎，三上栞花，山出結大，山田萌生，朱桓，宗像秀和，小野澤綾乃，小林ジェームス，小林真緒，城田健一，植元奏，諏訪部辰哉，須永瑛令那，菅野寧樹，西島本純，青島卓哉，石川和希，石寄鈴子，川村美紀，大藺圭輔，大川内亮，大谷健一，大澤理央，瀧本優芽，竹中琢視，中島博文，辻貴行，田中智大，土井博暉，入澤裕介，畑中エムレ太郎，畠山多恵子，樋口侑哉，服部晃大，福島葵，平井孝汰，平田千紘，万代博士，野口滉汰，矢嶋久乃，柳瀬悠貴，立花修一，廣田帆菜

統計調査士

優秀成績賞（A）：角口竣哉，谷垣博司，平田元

専門統計調査士

最優秀成績賞（S）：阿部卓也，井上大輔，荒砂成規，今井遼，森山周太，進藤聡，西山浩司，青柳空孝

優秀成績賞（A）：増井紀貞，林正洋，小野口晶重，佐藤大祐，長岡絢子，長谷川隆志，山本和人，李鵬飛，玉熊未祈

データサイエンス基礎

最優秀成績賞（S）：奥田晃基，熊谷颯杜，桂大

雅，光永光太，高井伸太郎，佐々恵里花，佐藤賢治，坂井健太郎，坂井勇斗，鮫島雅彦，小山徹，小田知典，植野圭一，仁木雅章，水村裕真，浅野規仁，船木翔，大隅匡，大田拓海，田代真一，東慎太郎，繁田智弘，府川直裕，黎浚銘

優秀成績賞（A）：阿部沙有理，遠山瞬，奥村将司，吉田武史，高橋良輔，高崎太朗，今崎裕美子，佐藤詠史郎，山口研太，市川元喜，小林峻，松山佑太，新井智，森山周太，清水勇希，西尾凜雅，西保紀，石崎花音，石福雅隆，幅田靖弘，國分隆司

データサイエンス発展

最優秀成績賞（S）：井上大輔，加藤竜哉，岩井三剛，山田耕太郎，森山周太，畝村拓真，中久保喜一郎，中村健吾

優秀成績賞（A）：坂下武志，小中祐希，池田郁也，鈴木岳大

データサイエンスエキスパート

最優秀成績賞（S）：今井遼

優秀成績賞（A）：河寄光毅，松本龍児，徳永備久

15. 統計検定合格者の声

狩野 裕（日本統計学会会長）

青嶋 誠（日本統計学会理事長）

統計検定準1級

山縣 尚史さん（三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社）

「非常に根気のいる試験だが，得られる知識は価値がある」

データサイエンティストにキャリアチェンジしようと考え，統計学の基礎を体系的に学べる統計検定を知りました。現在はデータサイエンティストの部署に所属しており，統計検定準1級は部内で取得推奨資格とされています。同僚や先輩社員も積極的に資格取得に取り組んでおり，その影響を受けて私も受験を決意しました。将来的に実社会の問題に対して適切な統計手法を応用できる能力を身につけることで，データ分析業務に役立てたいと考えています。

参考書籍としては，「統計検定準1級対応 統計学実践ワークブック」や「多変量解析法入門」などを使用しました。また「新装改訂版 現代数理統計学」を参考に公式の証明を確認することで基礎的な理解を深めました。さらにYouTubeやChatGPTを活用して，分かりにくい部分を補完しました。過去問は時間無制限で8割程度正解できるようになるまで練習しました。今年の試験で

不合格だった経験があったため，再挑戦での合格は達成感がありました。公式暗記にはなるべく頼らずに原理を理解することが大事だと思います。

今後は，統計検定1級の受験を検討しています。準1級で学んだ知識をさらに深め，より高度な統計手法を習得していきます。統計検定準1級は非常に根気のいる試験でしたが，その分得られる知識は非常に価値のあるものでした。機械学習やデータサイエンスの分野でも役立つ知識が多く，受験して本当に良かったと感じています。興味がある方には，ぜひ挑戦してみることをお勧めします。

統計検定2級

松平 正久さん（無職）

「統計学の間口や奥深さを想像できるようになった」

今年（2024年）70歳になった男性です。この度は統計検定2級試験の年長者合格賞を頂きありがとうございます。リタイア後，健康維持のための運動に関しては，様々な機会もあり困りませんでしたが，一方脳の健康に関しては，読書だけでは何か物足りなく，もう少し体系的に学べ，脳の刺

激にもなるものをと考えておりました。こんな中、昨今進展の著しいデータサイエンス等への漠然とした興味から、基礎となる統計学を学んでみようとして「統計学基礎」を買って求め、のんびりと取り組みました。この時点で検定試験の存在を知りましたが、当初はそこまでの意思もなく、とにかく理屈を理解したいとの思いだけで進めて参りました。文系出身でもあり、公式の証明などを理解するために高校数学まで遡って復習しながらの遅々とした学びで、趣味の一環のような位置づけでした。ある時、検定試験がCBT方式となり何時でも受験できることを知り、70歳になるに当たり、今できることを記念にやってみようと、今年正月に決め、誕生月の3月に受験を申し込みました。これも寒い間に受験を終え、春からは思う存分体を動かそうという考えからでした。決めた後は人並みに過去の問題集なども買い求め、問題の解き方や短い時間で解く練習を行いました。これまでは検定試験を意識せずに気楽に時間をかけて学ぶだけでしたので、決められた時間内に大量の問題を解くことには苦勞致しました。また試験当日は90分間の集中という何十年ぶりかの試練ではありましたが、何とか合格することができました。

昨今最先端のAIやデータ分析の発展は著しく、今後我々の生活にも更に深く関係してくると思われます。統計学の基礎を学んだことはこれらに比べればほんの入り口に過ぎないとは思いますが、入り口を開くことで、間口や奥深さを想像できるようになったことの意義も大きいと考えます。引き続きこれらの動向にも興味を持ち続けて参りたいと思います。

※2級の年長者の記録をおもちの方です。2024月3月試験での合格です。－広報担当 記

統計検定3級

朝倉 宏さん（長崎大学）

「確率統計の授業を担当するために」

私は研究を遂行する上で、実験方法を計画し、

実施結果をまとめることを日ごろ行っていますが、統計の学習をおろそかにしていたので、いつも後から困っていました。ソフトウェアなどで実験結果を統計処理するものの、そもそも原理を理解していないので、いつも中途半端な出来に苦しんでいました。

こんな状況にもかかわらず、確率統計の授業を担当することになり、さらには東京大学出版会の教科書が指定されました。これは統計をやり直せということなのだと理解し、なんとか勉強して授業15回分の資料を作成しました。恥を承知で申し上げますと、このとき初めて母集団と標本の区別がついたと言えます。コイントスで仮説検定の仕組みを説明する明快さに感動を覚えました。この際、大学基礎レベルの学修が完了したことを証明したくなり、インターネット検索で統計2級の存在を知りました。しかしながら、最初に2級を受けたら落ちるだろうと思ったので、一つ下の3級から取得することにしました。

CBT対応の問題集を一冊購入し、また自分が高校生の時の青チャートを引っ張り出しました。問題集を一通りやってわからなかったところに印をつけ、次に青チャートを一通りやりました。二周目として、問題集と青チャートの解答を自分なりに清書しました。試験当日は、緊張したときのあの両の腕の内側から胸にかけてのぞわぞわを10年以上ぶりに感じました。

試験を受けて思ったのは、本より画面を見て解くことが難しいこと、また、制限時間があるなかで初見の問題に触れるとまったくわからないこと、時間を使ってしまった難問に対して、諦めて次の問題に進む決断ができないことです。中くらいの難度の、計算の必要のない、提示されたグラフから言えることの問題では、正答以外の選択肢を消すための確実な根拠が欲しくて、長時間使ってしまった。後から見直すことにしておけばよかったです。

思いがけなく、おまけで賞までいただいて大変うれしく思っています。要望としては、具体的にどの問題を間違えたのか教えてほしいところです。

統計検定4級

平井 孝汰さん（兵庫県立芦屋高等学校）

「大学で統計学を学ぶために」

私は大学の学部を選ぶ際、データサイエンス・統計学に興味を持ちました。そして、統計学についてインターネットを用いて調べているうちに、統計検定の存在を知りました。実際にどのようなことを行うのかがわからなかったため、統計学を学ぶ第一歩として、まずは統計検定4級を受験しようと考えました。

日本統計学会が公式に認定しているテキストを買い、勉強を始めました。最初は簡単な内容だったので、テキストを買わなくても良かったのではないかと思いましたが、読み進めていくうちに統計の本質が詳しく丁寧に書いてあるように感じられ、とても読み応えのあるテキストだと思いました。そのテキストで勉強をしていると、統計学をとてもおもしろく感じることができ、やり始めて良かったと思うことができました。また、合格したことで、よりいっそう統計学に対する興味がわきました。

今はネットが普及し、ビッグデータを扱う時代になっていると思います。そのデータを論理的に正しく分析し、常識にとらわれず物事の本質を捉えることのできる能力が今の人たちには求められていると思います。そのため、統計学というのはとても魅力のある学問であると感じました。これから、より深く統計学を学ぶために、統計検定3級以上も受けていきたいと思っています。

統計検定 統計調査士

安藤 豪さん（会社員）

「データ分析能力の証明」

統計検定について最初に知ったのは、現職場で働いているときでした。職場でデータ分析の重要性が高まっており、そのスキルを身につけることが急務とされていました。その中で、統計検定がデータ分析能力の証明になると聞き、興味を持ちました。

受験を決意した動機は、将来的にデータ分析を

活用した職務に就くことを目指していたからです。統計学の知識はその基盤となるため、統計検定の合格は自分にとって非常に価値のある目標でした。

準備に当たっては、まず統計学の基礎からしっかりと学び直しました。教科書だけでなく、オンラインのリソースも活用し、特に難しいと感じた部分は繰り返し学習しました。また、過去問を解くことで実際の試験の形式に慣れ、時間管理のスキルも鍛えました。

試験を受けてみて、準備の過程で学んだ内容がしっかりと試されると感じました。難易度は高かったものの、準備してきたことが活かされ、問題を解くことができました。特に、データ解析の問題では、理論だけでなく、実際にデータをどう扱うかのスキルが問われるのを実感しました。

合格の知らせを受けた時は、大きな達成感を感じました。長い時間をかけて努力した結果が認められたこと、そして自分の知識が一つの基準に達したことが嬉しかったです。また、この合格が自分のキャリアにおいて大きなステップになると感じています。

今後も他の種別の統計検定を受験する予定です。今回の経験から、さらに高度な知識を身につけ、自分のスキルを広げていきたいと思っています。統計学の学びは終わりがなく、常に新しい発見があるため、学習を続けることでより多くの機会を掴めると信じています。

統計検定 データサイエンス基礎

藤原 伸哉さん（インストラクター）

「手を動かす分析の基礎を学べる試験」

私はAI・データ分析に関するコンサルタントを経て現在データサイエンス領域のインストラクターとして従事しています。今回、データサイエンス基礎の最優秀成績賞を頂きうれしく思います。

受験の動機としては、データサイエンティストを志す未経験者の教育の観点で資格内容を把握したかったことです。特に他の資格との差異を把握

することでケースに応じた資格取得をお勧めできると考えました。

実際に受験をして印象深かったのは、Excel の関数を用いた仮説検定と Excel のピボットテーブルの扱いを重視している点でした。学習時には手集計による推測統計と合わせて、Excel 関数を使った場合の対応関係を意識すると学びが深まると感じました。また、ピボットテーブルは強力なツールですが体系的にトレーニングできる機会は少ないため、この資格取得を通して学習できるのもポイントだと感じました。

総じてデータサイエンス基礎として手を動かす実践的な内容も多く、ケースに応じてこの資格取得をお勧めしたいと思います。

今後益々、データ利活用人材の重要性が増すとともに、その能力を判断できる基準も必要になってくると思います。この統計検定がこれからデータ人材を目指す方にとってもより良いモチベーションとなるようにさらなる発展を期待しています。

統計検定 データサイエンス発展

竹内 津紘さん（一橋大学）

「データサイエンスを正しく活用するための基礎」

私は主に数理統計学に関心があり、これまでに統計検定 2 級、準 1 級、1 級を受験・合格してきました。次のステップアップをどうするか検討していたところ、統計検定の中にデータサイエンスの区分があることを知りました。データサイエンスへの理解度を確かめるべく、まずは「データサ

イエンス発展」を受験してみることにしました。当時はサンプル問題が公開されていたものの、当該試験の参考書などが出版されていない状況でした。そのため、試験対策として出題範囲表の中でわからない内容をウェブで調べたりはしたものの、試験の全体像がよくわからないまま受験を迎えました。

当日一番驚いたのは、純粋な計算問題や IT に関する知識問題など、応用的な側面だけではなく基礎的な能力を問うものが多く出題された点です。昨今、データサイエンスはビジネスに直結する分野として注目を集めており、数学や IT に詳しくない方でも読めるような本が多く出版されているように感じます。しかしデータサイエンスの下支えとなるのは数学や IT であり、それらの基礎的な理解が無ければデータサイエンスへの深い理解は行き詰まってしまうでしょう。特に推測統計学はここ数年間で世間の関心が急激に高まっており、その代償として誤謬ともいえる言説が一般向けの書籍やウェブサイトなどで散見されるように感じます。データサイエンスというものは、誤った形で適用されてしまうとかえって悪にもなってしまう、そんな危険性ははらんだ分野であると思います。

私は、データサイエンスを正しく活用するための第一歩として、この「データサイエンス発展」をはじめとする検定試験を受験することをぜひおすすめします。私自身も引き続き、上位資格である「データサイエンスエキスパート」の合格を目指したいと思います。

16. 理事会・委員会報告（2025年5月10日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2025年5月10日（土曜日）

午後1時00分～午後1時54分

場所：東京理科大学経営学部5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティング ID: 882 3044 5143）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：照井伸彦会長，川崎能典理事長，伴正隆（庶務），

坂田綾香（庶務）、白石博（会計）、増田弘毅（JJSD）、
原尚幸（会誌編集と文）、佐藤忠彦（大会／企画・行
事）、鎌谷研吾（国際）、江村剛志（国際）、植木優夫
（渉外）、瀬尾隆（渉外）、竹内光悦（教育）

（以上13名、括弧内は役割分担）

監事：大森裕浩、樋口知之、山下智志

オブザーバー：青嶋誠

第1議案 2024年度事業報告について

川崎理事長より、資料に基づき、2024年度事業につ
いて報告がなされた。審議の結果これを承認し、社員
総会に諮ることにした。

第2議案 2024年度決算報告について

川崎理事長より、2024年度決算について報告がなさ
れ、白石会計理事により追加の説明がなされた。審議
の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

第3議案 監査報告について

大森監事、樋口監事、山下監事より、2024年度事業
報告および決算の監査結果について報告がなされた。
審議の結果これを承認し、社員総会に諮ることとした。

第4議案 日本統計学会中村隆英賞規程の改訂について

川崎理事長より、中村隆英賞の改訂について提案が
なされた。審議の結果これを承認し、社員総会に諮る
こととした。

第5議案 会員の入退会（回収資料）

川崎理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者
が紹介され、審議の結果、承認が得られた。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2025年5月10日（土曜日）

午後1時54分～午後3時7分

場所：東京理科大学経営学部5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID: 882 3044 5143）

出席：理事14名、監事3名、計17名

照井伸彦会長、川崎能典理事長、伴正隆、坂田綾香、
白石博、増田弘毅、原尚幸、小西葉子、佐藤忠彦、鎌
谷研吾、江村剛志、植木優夫、瀬尾隆、竹内光悦、大
森裕浩（監事）、樋口知之（監事）、山下智志（監事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より、JJSD の編集状況について報告がな
された。また、JJSD の第3期からの編集体制について
情報共有がなされた。

2. 和文誌編集委員会

原委員長より、和文誌の編集状況について報告がな
された。

3. 大会委員会

佐藤委員長より、資料に基づき、2025年度統計関連
学会連合大会について報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

佐藤委員長より、資料に基づき、第19回および20回
春季集会の運営について報告がなされた。また、川崎
理事長より資料に基づき、春季集会におけるセッション
企画の立案について情報共有がなされた。

5. 庶務委員会

伴委員長より、資料に基づき、会長選挙結果につい
て、以下に記す3件の後援承諾について、さらに学術
著作権協会への委託済み表示方法の変更について報告
がなされた。

・第8回統計データ分析コンペティション

総務省統計局、独立行政法人統計センター、大学共
同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研
究所及び一般財団法人日本統計協会の共催

・第73回統計グラフコンクール

主催：公益財団法人 統計情報研究開発センター

・第19回 データビジネス創造 コンテスト ～ Digital Innovators Grand Prix 19 (DIG19) ～

主催：慶應義塾大学 SFC 研究所 データビジネス創造
コンソーシアム

6. 広報委員会

川崎理事長より、会報の発行状況と春季集会の講演
動画公開に向けた準備状況に関する報告がなされた。

7. 国際関係委員会

江村委員より、連合大会での国際セッションの進捗
状況について報告がなされた。

8. 渉外委員会

植木委員長より、資料に基づき、科学研究費助成事
業における経理状況等の調査結果について報告がなさ
れた。また、川崎理事長より資料に基づき、旅費支給・

謝金支払等に関する規程の整備について報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、統計質保証推進協会の活動について報告がなされた。

10. 統計教育委員会

竹内委員長より、資料に基づき、理数系学会教育問題連絡会への参加等、活動報告がなされた。

11. その他

なし

<審議事項>

審議事項なし

2023・2024年度理事会が開催する最後の理事会・委員会であったことから、川崎理事長、照井会長からこれまでの運営への協力に関して各理事・監事に謝意が示された。

今後の予定

2025年 6月 7日（土）午後1時30分

社員総会：東京理科大学 5階会議室（ハイブリッド）

17. 社員総会報告（2025年6月7日開催）

一般社団法人 日本統計学会 社員総会

日時：2025年6月7日（土曜日）

午後1時30分～午後2時37分

場所：東京理科大学経営学部5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施
Zoom（ミーティングID: 835 1862 8486）

出席者：照井伸彦会長、川崎能典理事長

出席代議員：會田雅人、青嶋誠、赤谷俊彦、上野玄太、大森裕浩、狩野裕、川崎茂、川崎能典、川野秀一、西郷浩、清水誠、瀬尾隆、竹村彰通、田畑耕治、富澤貞男、西山慶彦、樋口知之、南美穂子、山下智志、山本義郎、美添泰人、渡辺美智子

（委任状提出5名、議決権行使書6名、欠席1名、以上34名）

オブザーバー：照井伸彦、伴正隆、坂田綾香、白石博、竹内光悦

冒頭、照井会長より定足数を満たしていることを確認の後、開会宣言がなされ、オブザーバー5名の出席が承認された。照井会長より、議事録署名者として西郷浩、山本義郎代議員に依頼する旨説明があり、承認された。

審議事項

第1議案 2024年度事業報告及び決算に関する件

照井会長および白石会計担当理事より、資料に基づ

き、2024年度事業報告、および決算報告が行われた。また、大森監事、樋口監事、山下監事により特に問題はない旨の監査報告がなされ、審議の結果、承認された。

第2議案 日本統計学会中村隆英賞規程の改訂について

照井会長より、資料に基づき、中村隆英賞の規程改訂について提案がなされ、審議の結果、承認された。

第3議案 学会賞各賞の選考委員の承認に関する件

照井会長より、2026年度の学会賞各賞（中村隆英賞を除く）の規程に基づく「会長が推薦する選考委員」として、小暮厚之会員および富澤貞男会員を推薦することが提案され、審議の結果、承認された。

第4議案 理事及び監事の選任に関する件

照井会長より、理事および監事の任期満了による退任と、その後任の選任について以下の通り提案がなされ、審議の結果、承認された。

理事（照井伸彦、川崎能典、伴正隆、増田弘毅、原尚幸、小西葉子、佐藤忠彦、鎌谷研吾、植木優夫、瀬尾隆、竹内光悦）及び現監事（大森裕浩、樋口知之、山下智志）が本社員総会の終結と同時に任期満了し、退任することになり、その改選の必要があるため、以下のよう

に後任の理事及び監事を選任する（2025年6月7日付）。
理事 狩野裕、青嶋誠、明石郁哉、増田弘毅、荒木由布子、朝日弓未、寺田吉壺、清智也、長尾大道、瀬尾

隆，竹内光悦

監事 照井伸彦，川崎能典，山下智志

報告事項（理事会報告）

1. 会員の入退会

川崎理事長より，回収資料に基づき，会員の入退会について報告がなされた。

2. その他

日本統計学会の第6代理事長（1986年8月～1988年7月）を務められた佐和隆光（さわ・たかみつ）先生（京都大学名誉教授，元滋賀大学学長）が5月17日にご逝去され，学会より供花と弔電をお送りしたことの報告があった。

報告事項（委員会報告）

1. 2025年度統計関連学会連合大会について

川崎理事長より，2025年9月7日（日）～11日（木）に，2025年度統計関連学会連合大会について，関西大学千里山キャンパスにて現地およびオンラインによるハイブリッド方式で開催予定であることの報告がなされ，企画セッションとして，日本統計学会各賞授賞式，日本統計学会各賞受賞者記念講演が予定されている旨説明があった。

2. 第19回春季集会（2025年3月開催）の報告

川崎理事長より，2025年3月8日（土）に開催された第19回日本統計学会春季集会について，筑波大学東京キャンパス文京校舎を会場に，オンライン参加も可能な形で開催されたと報告があった。

3. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

照井会長より，資料に基づき，日本統計学会各賞の受賞者について以下のように紹介がなされた。

日本統計学会賞：南美穂子氏，西山慶彦氏，藤澤洋徳

氏

日本統計学会中村隆英賞：川崎茂氏，長岡貞男氏，国友直人氏

日本統計学会統計活動賞：中間栄治氏・岡田昌史氏（共同受賞）

日本統計学会統計教育賞：独立行政法人統計センター，新井仁氏

日本統計学会研究業績賞：柳貴英氏，清水泰隆氏

日本統計学会出版賞：滋賀大学データサイエンス学部，鎌倉稔成氏・共立出版（共同受賞）

日本統計学会小川研究奨励賞：石原卓弥氏，仲北祥悟氏，奥戸道子氏，藤森洸氏

4. その他

なし

報告事項（その他）

1. 各種委員会からの報告

学会活動特別委員会，学会組織特別委員会，統計教育委員会，多様性推進特別委員会

学会活動組織委員会（會田雅人委員長）と学会組織特別委員会（山本義郎委員長）からは特に報告すべき事項はない旨報告された。竹内光悦委員長と南美穂子委員長よりそれぞれ，資料に基づき，統計教育委員会と多様性推進特別委員会の活動報告がなされた。

2. 研究分科会報告

川崎理事長より，資料に基づき，女性統計家・データサイエンティスト育成分科会，およびスポーツデータサイエンス分科会の活動報告がなされた。

3. その他

なし

2024 年度事業報告

(2024.4.1～2025.3.31)

学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として 14 年目を迎え、2 年周期の学会事業の 7 期目の 2 年度を終えることとなる。運営の経験を蓄積したことを生かして、照井伸彦会長、川崎能典理事長を含む 14 名の理事と 3 名の監事、および各種委員会における委員により、各種事業を着実に実施した。新たに獲得した科学研究費「国際情報発信強化(B)」により、Japanese Journal of Statistics and Data Science の発行と国際セッションの実施が強化され、昨年度に続き国際的な活動にも大きく貢献した年度であった。

2025 年 2 月 4 日現在の会員の数は 1,446 (名誉会員 13、正会員 1,353、準会員 6、学生会員 74)、これに加えて賛助会員 18 法人、団体会員 7 団体がいる。

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行

和文誌 2 号[第 54 巻シリーズ J 第 1 号(2024 年 9 月)、第 54 巻シリーズ J 第 2 号(2025 年 3 月)]を発行した。内訳は受賞者特別寄稿論文 6 編、特集論文 4 編、全 220 ページであった。

2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編集の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第 7 巻 (Issue 1, Issue2; 原著論文 43 編、全 1194 ページ)の発行に協力した。また、科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」の採択により資金面で貢献ができた (なお、本科研費は国際的活動資金としても利用されている)。

3. 会報の発行

No.199 (4 月)、No.200 (7 月)、No.201 (10 月)、No.202 (1 月) を発行した。

4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

昨年度に引き続き、JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。2024 年度は 2 冊(2025 年 3 月現在)が出版され、2024 年度以前に出版されたものを含めると全 42 冊が出版済である。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第 92 回大会の開催

2024 年 9 月 1 日(日)～5 日(木)、東京理科大学にて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で、2024 年度統計関連学会連合大会の一環として開催した。企画セッションとして、日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)と JJSD セッションを実施した。

2. 春季集会の開催

2025 年 3 月 8 日(土)に第 19 回春季集会在筑波大学にて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催された。参加者は 228 名 (現地 163 名、オンライン 65 名) であった。

3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った。

「統計教育分科会」(深澤弘主査：2010 年 12 月発足、2027 年 3 月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(末石直也主査：2010 年 12 月発足、2027 年 3 月終了予定)

「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」(渡辺美智子主査：2019 年 4 月発足、2027 年 3 月終了予定)

「スポーツデータサイエンス分科会」(酒折文武主査：2021 年 6 月発足、2029 年 5 月終了予定)

4. 国際会への協力

2024 年 12 月 13 日(木)～12 月 14 日(土)、台湾にて開催された台湾統計学会・日本統計学会・韓国統計学会共同開催の国際セッション CSA-JSS-KSS Joint session と CIPS-JSS-KSS Young Researchers の開催に協力した。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を授与した。

第 29 回日本統計学会賞：瀬尾 隆

第 4 回日本統計学会中村隆英賞：清家 篤

第 20 回日本統計学会統計教育賞：稲垣 道子、

株式会社インテージホールディングス

(代表：増田 純也・小林 春佳)

第 18 回日本統計学会研究業績賞：間野 修平

第 38 回日本統計学会小川研究奨励賞：栗柄 大輔、奥野 彰文、上原 悠植

2. 各種委員会の活動

社員総会 (2024 年 6 月 1 日、2025 年 3 月 7 日) を開催した。

理事会 (2024 年 5 月 11 日、7 月 19 日、10 月 12 日、2025 年 2 月 4 日) を開催した。春季集会に関係する理事監事および委員で構成される春季集会準備会合(2024 年 11 月 22 日)を開催した。

役員・代議員協議会 (2024 年 9 月 1 日) を開催した。

その他の各種委員会を適宜、開催した。

3. 広報活動の充実

メールリストの使用やウェブサイトの充実により、各種情報発信を促進した。日本統計学会公式 YouTube チャンネルを通じて、2024 年度統計関連学会連合大会の

企画セッションとして実施された日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)の模様を会員向けに配信した。

4. 入会者の拡大

若手研究者の入会を促進した。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となっている「統計検定」が、紙媒体(2024年11月17日)およびCBTの両方式で、一般財団法人統計質保証推進協会により実施された。

2. MOOCによる統計学講座の提供

MOOCのプラットフォームgaccoにおいて、「統計学I：データ分析の基礎」、「統計学II：推測統計の方法」および「統計学III：多変量データ解析法」を開講した。

3. 統計教育関連事業の推進

2024年度統計関連学会連合大会にて「生成AIがもたらす新しい統計・データサイエンス教育の展開と課題」と題した企画セッションを実施した。

「第22回統計・データサイエンス教育の方法論ワークショップ」を2025年2月28日(金)～3月1日(土)に日本統計学会統計教育分科会、情報・システム研究機構統計数理研究所と連携し主催した。本ワークショップ内で日本統計学会統計教育賞受賞者講演も行った。

「中高生・スゴボーツデータ解析コンペティション2024-1」を日本統計学会スゴボーツデータサイエンス分科会、同統計教育分科会と連携し、主催した。202チームの参加があり、審査・授賞を行った。

2025年3月8日(土)～9日(日)に開催された「理数系教員統計・データサイエンス授業方向上研修集会(札幌)」を共催した。

そのほか、関連情報や関連のイベント等をメーリングリストやサイトを利用して告知し、理数系学会教育問題連絡会への参加、統計教育関連コンテンツの開発・公開を行った。

V. その他

1. 細谷賞の後援

東北大学大学院経済学研究科が創設した細谷賞を後援した。

第6回細谷賞：星野 匡郎、柳 貴英

2. 「統計・エキスパート人材育成事業」の強化に関する要望書の提出

Society5.0/データ革命対応のためのデータサイエンス教育を実質化する統計科学「統計エキスパート人材育成事業」の強化について、と題した要望書を取りまとめ、盛山正仁文部科学大臣に提出した。

3. 学術著作権協会のAI利用への対応

日本統計学会誌(和文誌)とJOURNAL OF THE JAPAN STATISTICAL SOCIETY(英文誌)は学術著作権協会に著作権管理委託しており、当該協会が管理著作物のAI

利用に対応したことに伴い、上記2誌についてもAI利用を許可することにした。また、利用許諾は協会を通してのみ行う。

4. 年会費クレジットカード払いシステムのセキュリティ対応

学会HPに設置してある年会費クレジットカード払いのシステムについて、2025年3月末までに3Dセキュア2.0への対応が義務化され、期限までに対応した。

5. 春季集会における企業出展募集活動の強化

企画・行事委員会委員に人員を追加で配置し、コロナ禍を経て途切れていた春季集会での企業出展募集を組織的に実行した。

6. 代議員選挙および会長選挙の実施

定款および代議員選挙規程、会長選挙規程に従い、代議員選挙および会長(会長候補者、被選会長)選挙を実施した(2025年3月末日時点では、被選会長選挙は投票期間中)。

事業報告附屬明細書

附属明細書に記述すべき事項はない。

[illegible]

借 方		貸 方	
科 目	期 末	科 目	期 末
I 資産の部		II 負債の部	
現金預金	29,707,903	未払金	0
流動資産合計	29,707,903	負債合計	0
60周年記念基金	216,278	正味財産の部	
75周年記念基金	1,418,431	指定正味財産	0
S 底金	32,727,905	一般正味財産	169,515,812
FP 基金	3,002,695	(うち基本財産への充当額)	0
小川基金会	1,278,949		
中村隆英賞基金	91,701,785		
特定資産合計	139,807,909	(うち特定財産への充当額)	139,807,909
固定資産合計	139,807,909		
総資産合計	169,515,812	正味財産合計	169,515,812
		負債及び正味財産合計	169,515,812

(注) S 底金はS 東京大会記念事業基金
FP 基金はFP セミナーアワード事業基金

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで
の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り 報告いた
します。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、
理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報
告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業
務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告
にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類(正味財産増減計算書、貸借対照表) について検討
いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一. 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示してい
ものと認めます。

二. 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は
認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示してい
るものと認めます。

2025 年 4 月 23 日

一般社団法人日本統計学会

監事 大森 裕 浩
監事 樋口 知之
監事 山下 智 志

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである (単位:円)

特定資産の増減及びその残高 2025年3月31日現在(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘 要
60周年記念基金	216,278	42	153,640	62,680	増加額は預金利息、減少額は学会賞 贈時計、大会参加費)、振込手数料 等。
75周年記念基金	1,418,431	656	0	1,419,087	増加額は預金利息。
S 東京大会記念事 業基金	32,727,905	15,090	2,719,300	30,023,695	増加額は預金利息、減少額は賞金、事 務局業務委託費、振込手数料等。
FP セミナーアワード 事業基金	11,278,949	5,214	0	11,284,163	増加額は預金利息。
小川基金会	2,464,561	1,096	113,085	2,352,572	増加額は預金利息、減少額は副賞等。
中村隆英賞基金	91,701,785	42,002	1,069,778	90,674,009	増加額は預金利息、減少額は賞金、事 務局業務委託費、振込手数料等。
合 計	139,807,909	64,100	4,055,803	135,816,206	

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書は財務諸表の注記に記載している。

18. 理事会報告（2025年6月7日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2025年6月7日（土曜日）

午後3時00分～午後4時03分

場所：筑波大学自然系学系棟 D802

オンライン理事会として実施

Zoom（ミーティング ID: 868 5127 0135）

理事の総数 14名 出席 理事の数 12名

監事の総数 3名 出席 監事の数 3名

出席者：

理事：狩野裕会長，青嶋誠理事長，坂田綾香（庶務），
明石郁哉（庶務），白石博（会計），荒木由布子（会誌
編集和文），朝日弓未（広報），寺田吉壺（大会／企画・
行事），清智也（国際），長尾大道（渉外），瀬尾隆（渉
外），竹内光悦（教育）

（以上12名，括弧内は役割分担）

監事：照井伸彦，川崎能典，山下智志

第1議案 会長及び理事長の選出について

開会にあたり，被選理事長青嶋誠が選ばれ，暫時，
議長を務めた。議長は，会長照井伸彦と理事長川崎能
典が任期満了により退任することとなり，会長選挙の
結果，狩野裕会員が被選会長として選ばれ，被選代議
員会において青嶋誠代議員が被選理事長として選ばれ
た旨を述べた。これについて慎重に協議した結果，会
長選挙規程および役員選任規程に則り，全員一致をもっ
て，以下のとおり選定した。被選定者は，席上，その
就任を承諾した。

会長 狩野裕

理事長 青嶋誠

以降の議長は理事長が務めることとした。

第2議案 常設委員会における委員の交代について

青嶋理事長より，常設委員会の委員の交代について
説明がなされ，審議の結果，承認された。

和文誌編集委員会

江村剛志委員，ソルヴァン比呂子委員，柳原宏和委
員，山村麻理子委員より荒木由布子委員，今泉允聡

委員，鎌谷研吾委員，島津秀康委員，田栗正隆委員，
廣瀬雅代委員に交代（2025年6月7日付）

大会委員会

佐藤忠彦委員より寺田吉壺委員に交代（2025年6月
7日付）

企画・行事委員会

佐藤忠彦委員，塚原英敦委員，伴正隆委員，牧本直
樹委員，五十嵐未来委員より寺田吉壺委員，宿久洋
委員，谷岡健資委員，土田潤委員に交代（2025年6月
7日付）

庶務委員会

神谷直樹委員，伴正隆委員より奥野彰文委員，明石
郁哉委員に交代（2025年6月7日付）坂田綾香委員
が委員長を務める。

広報委員会

浦沢聡士委員，小西葉子委員，塚本高浩委員より朝
日弓未委員，田島友祐委員，趙宇委員に交代（2025年
6月7日付）

国際関係委員会

鎌谷研吾委員より清智也委員に交代（2025年6月7
日付）江村剛志委員が委員長を務める。

渉外委員会

植木優夫委員より長尾大道委員に交代（2025年6月
7日付）

第3議案 常設委員会における委員の再任について

青嶋理事長により，資料に基づき，常設委員会にお
ける委員の再任について説明があり，審議の結果，承
認された。

JJSD 支援委員会

増田弘毅委員，イリチュ美佳委員，植木優夫委員，
奥井亮委員，金森敬文委員，村上秀俊委員，矢田和
善委員を再任（2025年6月7日付）

和文誌編集委員会

伊藤ゆり委員，橋本真太郎委員，原尚幸委員，廣瀬
善大委員，福井敬祐委員，松下幸敏委員，吉田拓真
委員を再任（2025年6月7日付）

企画・行事委員会

秋元良友委員を再任（2025年6月7日付）

渉外委員会

西郷浩委員，瀬尾隆委員，山下智志委員を再任（2025年6月7日付）

質保証委員会

瀬尾隆委員，国友直人委員，西郷浩委員，福地純一郎委員，矢島美寛委員を再任（2025年6月7日付）

統計教育委員会

岩崎学委員，鎌倉稔成委員，川崎茂委員，栗原孝次委員，酒折文武委員，瀬尾隆委員，高部勲委員，竹内光悦委員，椿広計委員，藤井良宜委員，宿久洋委員，美添泰人委員，渡辺美智子委員を再任（2025年6月7日付）

第4議案 常設委員会における委員の追加について

青嶋理事長により，資料に基づき，質保証委員会における委員の増員について説明があり，審議の結果，承認された。

質保証委員会

増員として渡辺美智子委員を任命（2025年6月7日付）

第5議案 臨時委員会における委員の交代について

青嶋理事長より，資料に基づき，各臨時委員会の再任と交代について説明がなされ，審議の結果，承認された。

・[JSS-Springer 編集委員会]（任期2025.1.1～

2025.12.31）

竹村彰通委員，赤平昌文委員，岩崎学委員，大屋幸輔委員，清水邦夫委員，鈴木大慈委員，谷口正信委員，椿広計委員，服部聡委員，松井茂之委員より荒木由布子委員，内田雅之委員，奥井亮委員，柿沢佳秀委員，小池祐太委員，小林弦矢委員，駒木文保委員，下津克己委員，原尚幸委員，山田宏委員に交代（2025年1月1日付）

大森裕浩委員（委員長）を再任（2025年1月1日付）

・[産学連携推進委員会]（任期2025.1.1～2025.12.31）

椿広計委員（委員長），大野忠士委員，鎌倉稔成委員，鈴木督久委員，中野純司委員，西井龍映委員，舟岡史雄委員，安川武彦委員を再任（2025年1月1日付）

・[MOOC 委員会]（任期2025.1.1～2025.12.31）

佐藤整尚委員（委員長），酒折文武委員，下川敏雄委員，竹村彰通委員，中山厚穂委員，松田安昌委員，渡辺美智子委員を再任（2025年1月1日付）

・[多様性推進特別委員会]（任期2年）

南美穂子委員（委員長），荒木由布子委員，Wu Stephen 委員，小野陽子委員，菅由紀子委員，黒木学委員，下平英寿委員，廣瀬慧委員，松井知子委員，渡辺美智子委員を再任（2024年4月1日付）

第6議案 会員の入退会（回収資料）

青嶋理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者を紹介され，審議の結果，承認された。

19. スポーツデータサイエンス分科会（2021-2025年度）報告

スポーツデータサイエンス分科会主査 酒折 文武（中央大学）

2021年度6月から2025年5月までのスポーツデータサイエンス分科会の詳細を紹介する。なお，2025年6月10日時点でのスポーツデータサイエンス分科会の会員数は181名である。

1. コンペティションの開催

毎年コンペティションを開催し，貸与したデータ（一部の部門ではデータ貸与なし）に基づき，研究成果を競っている。当該期間のコンペティ

ションの概要は以下の通りである。

(1) 第11回スポーツデータ解析コンペティション（2021年度）

野球部門／サッカー部門／ゲートボール部門／卓球部門／ソフトテニス部門／柔道部門／Esports部門／インフォグラフィック部門

参加83チーム，延べ参加者数279名。

(2) 2022年度スポーツデータサイエンスコンペティション

野球部門／サッカー部門／柔道部門／Esports部門／インフォグラフィック部門

参加65チーム，延べ参加者数214名。

(3) 2023年度スポーツデータサイエンスコンペティション

野球部門／サッカー部門／バスケットボール部門／柔道部門／MLB部門／インフォグラフィック部門

参加96チーム，延べ参加者数298名。

(4) 2024年度スポーツデータサイエンスコンペティション

野球部門／サッカー部門／バスケットボール部門／eスポーツ部門／インフォグラフィック部門

参加94チーム，延べ参加者数322名。

2. シンポジウム等の開催

コンペティションの審査会を兼ねたシンポジウムを以下のように開催した。

シンポジウム「スポーツアナリティクスと統計科学」第11回スポーツデータ解析コンペティション審査会

日時：2022年1月8日（土）～9日（日）

場所：オンライン

シンポジウム「スポーツアナリティクスと統計科

学」2022年度スポーツデータサイエンスコンペティション審査会

日時：2023年1月7日（土）～8日（日）

場所：オンライン

シンポジウム「スポーツアナリティクスと統計科学」2023年度スポーツデータサイエンスコンペティション審査会

日時：2024年1月6日（土）～7日（日）

場所：中央大学後楽園キャンパスとオンラインのハイブリッド

シンポジウム「スポーツアナリティクスと統計科学」2024年度スポーツデータサイエンスコンペティション審査会

日時：2025年1月11日（土）～12日（日）

場所：同志社大学今出川キャンパスとオンラインのハイブリッド

3. 情報発信

公式ウェブサイト

<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/sdss-jss/>

にて情報発信を行っている。コンペティションの過去の研究成果も公開中である。2025年6月以降も活動を継続する。

20. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月の順に掲載いたします。

修士論文

●(1)青柳友大 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)歯科パノラマX線画像における擬似的な齲歯生成と検出精度向上の試み (5)村松千左子 (6)2025年3月

●(1)伊藤大貴 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)BAPCモデルによる医療需要量の予

測とその評価 (5)杉本知之 (6)2025年3月

●(1)井下敬翔 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)多段階進化的モデル統合とカリキュラム学習による感情特化型大規模言語モデルの構築 (5)周曉康 (6)2025年3月

●(1)今江良太 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)少数サンプルからの画像異常検知モデルの精度推定 (5)飯山将晃 (6)2025年3月

●(1)上田航平 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)地方銀行におけるダイレクトメールを活用した投資信託口座開設促進マーケティングの効果検証 (5)田中琢真 (6)2025年3月

● (1)上野孝斗 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)イジング模型に対する不偏MCMC法のミーティングタイムとバイアス補正項 (5)来嶋秀治 (6)2025年3月

● (1)大石剛介 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)Wavelet変換と機械学習による自動車締付プロセスの異常検出法 (5)松井秀俊 (6)2025年3月

● (1)小笠原功二 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)VLMを用いた図表説明文生成の課題検証 (5)南條浩輝 (6)2025年3月

● (1)小野哲弘 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)WEB文書からの企業情報の抽出及び業種分類予測に関する研究 (5)南條浩輝 (6)2025年3月

● (1)加藤敦詞 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)低頻度で取得される位置情報データログに対する高解像度な補完モデルの生成 (5)清水昌平 (6)2025年3月

● (1)川端篤 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)事業内容文書からの取扱品目に関する情報抽出の研究 (5)南條浩輝 (6)2025年3月

● (1)木村高啓 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)少数のラベル付き金融データに対する半教師あり学習の適用 (5)笛田薫 (6)2025年3月

● (1)久保直也 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)運転安定性分析用のプローブカーデータにおける偏り問題と必要密度に関する検証 (5)川井明 (6)2025年3月

● (1)幸壬晃 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)Panoptic Liftingにおける破滅的忘却抑制を考慮したカメラポーズ選択による増分学習法 (5)飯山将晃 (6)2025年3月

● (1)後関駿 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)複数のバイズモデルの統合に基づくバスケットボール選手のパフォーマンス評価 (5)岩山幸治 (6)2025年3月

● (1)小林慶吾 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)日本のシャンプー市場における購入

意向上昇要因の解明 (5)清水昌平 (6)2025年3月

● (1)佐竹竜弥 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)セマンティックセグメンテーションとフレーム予測モデルによるコンテキストを考慮した交通状況のリスク推定 (5)飯山将晃 (6)2025年3月

● (1)信楽隼風 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)ブラックボックス状態空間モデルに基づく時系列クラスタリング (5)河本薫 (6)2025年3月

● (1)高瀬拓歩 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)Model-based Recursive Partitioningを用いた電気銅製造の品質不良に対する不良因子分析 (5)河本薫 (6)2025年3月

● (1)徳永一輝 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)テキストデータと音声データを利用したマルチモーダル授業内会話構造可視化の研究 (5)市川治 (6)2025年3月

● (1)戸簾隼人 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)自転車乗車異常フォーム検出のためのマルチモーダルAIアーキテクチャの開発 (5)義久智樹 (6)2025年3月

● (1)西智紀 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)高等学校におけるICTの普及が生徒の学力と情意的側面に与える影響の推定 (5)奥村太一 (6)2025年3月

● (1)林岬太郎 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)アンサンブル学習に基づく人工衛星からの雲の影響を考慮した海面水温推定手法 (5)飯山将晃 (6)2025年3月

● (1)藤井悠 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)大規模視覚言語モデルの反復推論による画像からの検索キーワード抽出 (5)飯山将晃 (6)2025年3月

● (1)マイルズボール (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)可変ドメイン関数データに対する変数選択と遺伝子発現データ分析への応用 (5)松井秀俊 (6)2025年3月

● (1)松岡龍太郎 (2)修士 (データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)GNNと対照学習に基づいたマル

チモーダル融合による食品推薦システムの構築

(5)周暁康 (6)2025年3月

●(1)松下剛士 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)コロナ禍における観光誘起施策が宿泊客の回復過程に与えた影響の分析 (5)清水昌平 (6)2025年3月

●(1)馬渕美奈 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)ガラス流量を制御するための因果関係の分析 (5)清水昌平 (6)2025年3月

●(1)間宮壮太 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)yahoo知恵袋データセットにおけるベストアンサーの推定 (5)市川治 (6)2025年3月

●(1)三藤陵根 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)気象・気候基盤モデルを活用した野外環境における植物の遺伝子発現の予測 (5)岩山幸治 (6)2025年3月

●(1)村井良丞 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)三次元空間における人物の視点位置・視線方向の推定に関する研究 (5)佐藤智和 (6)2025年3月

●(1)山本皐平 (2)修士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)関数データ解析に基づくスパース推定を用いた空間データ分析 (5)松井秀俊 (6)2025年3月

●(1)松野大輔 (2)修士(理学) (3)千葉大学 (4)Semiparametric function estimation with localized Bregman divergence (5)内藤貫太 (6)2025年3月

博士論文

●(1)田中俊太郎 (2)博士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)A Study on Variable Screening Methods for High-Dimensional Data with Complex Structures (複雑な構造を持つ高次元データの変数スクリーニング法に関する研究) (5)松井秀俊 (6)2025年3月

●(1)増井恵理子 (2)博士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)家族志向に着目した性別専攻分離に関する計量社会学的研究 (5)伊達平和 (6)2025年3月

●(1)山崎友也 (2)博士(データサイエンス) (3)滋賀大学 (4)Defect Prediction and Shape Optimization of Die-Cast Products Using a Surrogate Model Based on Geometrical Features (形状特徴量を活用したダイカスト製品の不良予測および形状最適化) (5)村松千左子 (6)2025年3月

●(1)桃木光輝 (2)博士(理学) (3)鹿児島大学 (4)Extreme Value Regression Modeling for Risk Analysis (5)吉田拓真 (6)2025年3月

21. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●江村剛志『コピュラ理論の基礎』

コロナ社, 2025年5月, 2,970円

内容紹介: 確率モデルの構築に有用な手法であるコピュラの理論と代表例を基礎から網羅的に解説. 詳細は公式HPをご参照ください: <https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339028423/>

●Takeaki KARIYA and Yoshiro YAMAMURA『Empirically Effective Government and Corporate Pricing Models---Yield Curves and Default Curves』

Springer, 2025年5月, eBook 16,015円, Hard Copy 20,019円

●渡辺美智子, 竹内光悦, 林宏樹, 新井崇弘, 廣澤聖士, 林兵馬『データ分析の基礎〜生成AIではじめる統計・データサイエンス〜』

東京図書株式会社, 2025年5月, 2,860円

内容紹介: 本書は ChatGPT の活用法を具体的な実行事例で紹介し, 会話を通じてデータ分析をどのように行えるかを学べる, 新しいデータ分析の入門書です.

●石村友二郎, 加藤千恵子, 劉晨『Excel でやさしく学ぶアンケート調査の統計処理―調査票作成か』

ら分析と読み取り方まで』

東京図書株式会社, 2025年6月, 2,860円

内容紹介: アンケート調査の方法から調査票の作り方, 集めたデータをパターンに分類して適切な解析方法を選択. Excel 2024/365対応.

●安部公輔『理工系のための入門数理統計学』

東京図書株式会社, 2025年7月, 2,860円

内容紹介: 理工系大学の1年次に微分積分と線形代数を学んだ読者に向けた数理統計学の入門書. 豊富な「例」やRの実行例も掲載.

●豊田秀樹『共分散構造分析～生成AIとの協働による問題解決編～』

東京図書株式会社, 2025年7月, 3,960円

内容紹介: 編著等が開発した全く新しいオリジナルの共分散構造モデルとして, 新商品開発の文脈で, 生成AIとコラボレーションしながら教程を展開する.

●小林みどり『クリティカルシンキングで学ぶデータリテラシー』

共立出版, 2025年5月, 2,420円

22. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2025年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います. 会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします. 速やかな納入にご協力をお願い申し上げます. 便利な会費自動払込制度もご用意しています. 次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい. また, クレジットカードでの学会費払込も受け付けております. お申込みは学会ホームページよりお願いいたします. (<https://www.jss.gr.jp/fee/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住所を以下にお伝えください. 手続きに必要な書類が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました. 謹んで追悼の意を表し, 御冥福をお祈り申し上げます.

佐和 隆光 会員

入会承認

赤石龍平, 飯田優希, 石嶺隼, 岩重文也, 岩田悠平, 岩淵滯, 畝矢寛之, 大谷直輝, 大林一平, 大宮楽, 奥土康太, 小野泰河, 何協, 川邊浩史, 國安航平, 久保田晃太郎, 高鵬鋼, 込山湧士, 佐藤圭悟, 佐藤光祐, 司馬博文, 鈴木誠, 鈴木了太, 関根輝, 田中俊太郎, 田中優介, 谷岡健資, 豊田雅樹, 中川亮, 中田陽介, 中野領也, 中村航平, 西川直輝, 西澤誠, 花立修平, 林田悠汰, 福士歩, 船山貴光, 前田煌, 牧勇翔, 松下剛士, 三上宗一, 三宅純矢, 宮崎隆之介, 桃木光輝, 柳下翔太郎, 矢野智也, 山下優樹, 山本健介, 姚雯亭, 若松孝明 (敬称略)

退会承認

石井一夫, 碓井英司, 大久保晋之介, 岡田朋子, 小川雅弘, 奥本佳伸, 尾崎寿昭, 小田島洋斗, 小野寺剛, 川喜田雅則, 紀伊真昇, 桑原廣美, 小島睦月, 篠田桜楽, 志村光弘, 庄司功, 杉山高聖, 高橋淳, 田中晴喜, 丹後俊郎, 手塚大樹, 中村真人, 成田雅博, 西森勇人, 野村淳一, 橋本紀子, 畑農鉄矢, 原田信行, 藤川清史, 藤田英治, 別府健治, 正木伸之, 松井弘道, 丸山みなみ, 良永康

平, 吉村功, 渡邊武志, 公益財団法人日本数学検定協会 (敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

梅津佑太, 黄撫春, 河野遥希, 後藤達也, 嶋村海人, 白石友一, 樋口勇夫, 一ツ木俊通, 逸見祐司, 松井佑介, 松岡弘樹, 盛浩之, 柳澤剛, 山田智明 (敬称略)

現在の会員数 (2025年6月7日)

名誉会員	12名
正会員	1,345名
準会員	5名
学生会員	64名
総計	1,426名
賛助会員	17法人
団体会員	7団体

23. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)
できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先:

〒102-0071

東京都千代田区富士見 1 丁目11番2号

東京理科大学経営学部経営学科内

朝日 弓未 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会連合ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL:
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp